白内翳治術集論

附録 穿瞳術集論

十 貳 9
579

穿瞳術集論　全

武
579

早稲田大学図書

自序

凡ソ人神ト万物トヲ相繋ク所ノ諸器（眼耳鼻口表皮）ニ於テ視聴ノ器ノ最モ卓絶セルヿハ固ヨリ論ヲ俟タス夫万物ノ在ルヿヲ知テ其距離ヲ辨シ好ムモノニハ近ツキ恐ルヽモノニハ遠カルヿヲ得ルハ実ニ此器ノ在ルカ為ナリ

「ベール」人名ノ言ニ云ハスヤ（千八百十五年ノ著書）凡ソ外識中神（即五）視聴ノ如ク要ナルモノナク視聴ノ如ク人身保護ノ用ヲ備ルモノナシト又他人ノ言ニ云（「ヘチシク」止紫カチ千八百十四年ノ著書ニ出ツ）人身ノ諸器タル固ヨリ互ニ相待テ其政ヲ為シ以テ性命ヲ保續スト雖眼目ノ如キ汎ク全身ニ相関係スルモノナシト

然氏其疾病ニ罹ルヤ他ノ諸器ト異ナルヿナリ而カモ其病タル或ハ一分ノ明ヲ失スルアリ或ハ全ク盲トナルアリ既ニ

門 武 日
號 579
巻

盲トナルヰハ假令富貴ニ〆高位ニ居ト雖唯是一個ノ不幸人タルノミ動輙スレハ外物ノ為ニ其身ヲ害ス故ニ諺ニ云ハズヤ盲ハ貧ナリト其言允レリト謂可シ

然圧其病必シモミナ不治ノ者ニ非ス尚幸ニ一二ノ治術有テ明ヲ復スルヿ恰蘇活スルカ如ク復タヒ人交ヲ得ルニ至ルモノアリ

其治ヲ得ルノ疾病中ニ於テ最タルモノハ白内翳ト瞳孔縮閉トナリ此両病其種甚タ居多故ニ其治術　種〻アリ而〆其術タルヤ亦外科中最タルモノナリ且ツ此両病タル屢〻ヨク相兼発ス故ニ其治術亦兼子施サル可ラザルモノ有リ此両病ノ治術當今世間ニ行ハル所ノモノヲ纂集〆以テ正シク諸家ノ方術ヲ析衷スルハ実ニ难事ニ〆即チ此書ヲ著ハスノ本志ナリ然圧此事ヤ実ニ諸家ノ高論ヲ假ルニアラスンハ敢テ予カ微力ノヨク致ス所ニ非故ニ今唯諸家ノ論説及方術ヲ取テ混セルモノハ之ヲ分チ離ルヽモノハ之ヲ合シ各自ノ部門ヲ定テ以テ之ヲ示ノミ

今夫レ諸邦ニ於テ著述スル所ノ眼科書甚タ居多而ルヲ別ニ新術ヲ発明スルニモ非シテ此著ヲナス実ニ唯無用ノ長物ヲ増スニ似タリ然ト雖我邦ニ於テハ譯書ノ他尚ヲ向内翳ノ著書少ナク且ツ「テンハーフ」名人カ剔出方ヲ興ノ後「ヒユフ子ル」名人カ復タヒ擠下方ヲ固執シ後又「メンセル」ト名人カ刺角膜術ヲ賞セルヨリ方術相定ラス論争競ヒ起リ其法未タ決セス尚且ツ穿瞳術ニ至テハ未タ曽テ我邦語ノ著書アラス故ニ今ニ近世諸邦ニ於テ発明スル所及脩正スル所ノモノヲ取

テ正シク其部門ヲ立テ之ヲ公ニスルモ亦学者ノ為メニ少
補アラザルヿ無カラン乎

凡ソ諸眼病就中白内翳ハ我邦ニ於テ古来其治術盛ナルニ
ノ名家ト称スルモノ特リ他邦ニ多キハ何ソヤ是実ニ我邦ニ
其人ノ缺タルニハアラス唯其書ナキノ然ラシムルナリ既
ニ外科術ノ島傑ト称ス可キ者甚多ク殊ニ眼科ニ於テハ妙手
ト云可キ者少カラス夫レ「クリユアイスチニス」人名「アヒアウクス」人名「メン
ルト」人名ノ如キハ其最タル者ニアラスヤ皆是「カルハ」人名「ール」
人名「ヒムレイ」人名「ラシケンベック」人名「カラーヘ」人名「ミユホイス」人名等ノ跡ヲ嗣テ眼
科ヲ琢磨スルノ人ナリ

或人云（「ホウリヱ」人名カ千八百十五年ノ著書ニ出）凡ソ眼科ヲ修正ス可キ卓絶ナル発明
ハミナ外科術ト博ク通スルノ人ニ在モノニシテ純一ノ眼科
家ノヨクスル所ニ非ト」其言実ニ然リ今夫レ人ミナ先天ノ
白内翳ヲ治シ縮閉セル瞳孔ヲ穿ヿヲ得ルハ全ク「セヒルデン」
人名ヨリ始リ其他近世ニ至テ眼科ノ諸治術ニ種々ノ発明ヲ
為メ益々之ヲ修正セルハ実ニ「シカルパ」人名等ニ在リ（按ニ此両家ハ純一ノ眼科家ニ非ス）
是故ニ外科内科ニ拘ラス其支派ニ術ニ達セント欲スルモ
ノハ宜ク其本源ニ明カナラスンハアラス今此編ノ著ヤ此
言ニ合ハスト雖唯是支派ノ中ニ於テ要アル者ヲ示サント
欲スルナリ故ニ唯諸方術ノ折衷ヲ為ノミ学者此ヲ以足レ
リトスルヿ勿レ

和蘭医官　ハンオンセノールト　記

圖解

第一板

一圖「ウエンセル」人名之翳刀

二圖「リクテル」人名之翳刀

三圖「テンケンベック」人名之刺角鍼

四圖「シカルト」人名之翳鍼

五圖「サウニナルス」人名之翳鍼

六圖「スクミツト」人名曲夫釵状鍼

七圖「マール」人名之翳刀

八圖「ベール」人名之釵状鍼

九圖「ダビール」人名之眼匕

十圖 眼瞼引（ケンヒキ）其用甚多（タシ）

十一圖 「ヘルリトル」人名之穴瞼子

第二板

一圖 「マウノイル」人名之剪刀 截虹彩者

二圖 小鈎 水晶体ヲ剛膜ヨリ剥出スニ用フ

三圖 「アダニス」人名之闘羽鍼

四圖 「アダニス」人名之小刀 虹彩ヲ截ルニ用

五圖 「コレオンシオ」一條ヲ退クルモノ

一符 鈎 即不動ノ條

二符 鈎套 進退スルノ条

三符 扁輪 此レヲ以テ鈎套ヲ進退セシム

四符 小刀 角膜ヲ剥ス 割口ヲ造ル

六圖 「コレオンシオン」両条相合スルモノ

七圖 同器ノ柄ヲ割開シテ其中ノ制製ヲ示ス

一符 柄

二符 扁輪 柄ヲ圍ム

三符 小横柱 小横柱ヲ鈎套ニ附シ以テ進退ス

四符 室 容ルル処

五符 溝 鈎套ノ進退スル処

六符 鈎

七符 鈎套

八圖 同 一条ヲ退クルモノ但シ之ヲ大ニシテ見ルニ便ス

九圖 改製「コレオンシオン」二條ノ鈎 其鈎ヲ二条ニス但シ之ヲ大ニシテ見ルニ便ス

圖ニ一符ヲ脱ス 一符 二條ノ鈎 其弾力ヲ以テ端ヲ開クコト一レケンニ過キサラシム

二符 銀輪 鈎套ニ着ケリ

三符　鉤奩

同器　其大サ真ナル者ニ依ル

同器ヲ持ツノ手状ヲ示ス

一及二符　拇指及ヒ中指

三符　示指扁輪ヲ動カシテ鉤奩ヲ進退セシム

第三板

一圖　「ランゲンヘツク」各人之「ケテトビ」此ヲ以テ殺羽ヲ截破ル

二圖　「ランケンヘツク」各人之穿瞳術器

三圖　同器動揺スル部

一符　小鉤

二符　弾子ハシキ

三符　「コノビ」此ヲ以テ小鉤ヲ進ム

四圖　同器ノ小鉤金管ヨリ進出スル者

五圖　「アッサリビ」各人ノ毛引穿瞳術ニ用フ

六圖　「ヲシゲンヘツク」各人之小鉤穿瞳術ニ用フ

七圖　「ランケンヘツク」各人之小刀虹彩ヲ截ルニ用フ

八圖　「コイシンケル」各人ノ穿瞳術器之ヲ開テ其背ヨリ見ル

イ符　両鉤毛引ノ如ニ相開合ス其相合スル片唯一條ノ鉤ノ如シ

圖ヲ以按ニハ符ナル可シロ符ニ非

ロ符　鋼ノ「コノヒー」相合スル片對スル所ノ渠ニ入テ以テ鉤端ノ齟齬ヲ禦ク

ハ符　柄象牙ヲ以テ外ヲ圖相合スル片ハ八角形ノ柄トナリ

ニ符　弾子ハシケ柄中ニ在リ

ホ符　八角形ノ柄

九圖　同器側面ヨリ之ヲ見ル

ロ符　鉤ノ両葉　圖ヲ見ルニロ符ニツナシ

八符ニハ「レムメル」ヲ套メル柄　圖ヲ見ルニ八符ニツナシ

二符　彈 納中ニ在リ

木符　柄

一符　「コノヒー」

按スルニ八九ノ圖符相錯簡スル所アリ

通計三十二圖

白内翳治術集論目次

卷之一

大較　疾病之所在

區別　症候大較

各自之症候　疾病之始終

原因　他病合併

前見　預防方

内科術　施術月時之擇

患者預備　外科術

施術前之常則

卷之二

擠下方上　刺剛膜術

「ケルシアース」人名之方術　「シカルパ」人名之方術
「ワール」人名之方術　「ナウンデルス」人名之方術
「アダムス」人名之方術
擠下方下　刺角膜術
「ケンテイセ」人名之方術　「コンラシ」人名之方術
「ビユアホルン」人名之方術　「ヨンゲンゼワリ」人名之方術
「ミンタイン」人名之方術　「サウンデルス」人名之方術
「ロイナル」人名之方術
巻之三
剔出方　刺角膜術
「フンイタグ」人名之方術　尋常之方術
「アエンセ」人名之方術　「サンタレリ」人名之方術
「ベール」人名之方術　「キフツン」人名之方術
「アダムス」人名之方術　「ワルドセツフ」人名之方術
器具之論説
剔出方下　刺角膜術
「ベルト」人名之考按　「ミユテル」人名之方術
「ルオベンスラインルオベル」人名之考按
「アアル」人名之方術　「クワドリ」人名之方術
施術誤治之因　擠下方誤治之因
剔出方誤治之因　施術間及其後之傍症
後翳　術後之療法
翳鏡　諸術比較
諸方術可否之決定

附録穿瞳術集論目次

第一術　穿入方

「セルデ」人名之方術　「サルプ」人名之方術
「ヤニン」人名之方術　「マウノイル」人名之方術
「アダムス」人名之方術

第二術　穿出方

「ギユリン」人名之方術　「ウエンセル」人名之方術
「デモウルス」人名之方術　「ヘール」人名之方術
「ギフソン」人名之方術　「シエテル」人名之方術
「アウテンリート」人名之方術

第三術　截離方

「ヒカルヒ」人名之方術　「スクミツト」人名之方術

「ランケンヘツヒ」人名之方術　「ボンセル」人名之方術
「レーシンケル」人名之方術　「ベール」人名之方術
「カラー」人名之「コンオンシオニ」器名
第四術　離除方
「アツナリ」人名之方術　圖解

白内翳治術集論一　千八百十八年鏤行 我邦文政元年也　バンオンセノールト著
和蘭醫官
其・大較
凡ソ瞳孔ノ曇翳スルヤ其疾水晶体ニ在ルアリ水晶嚢ニ在
ルアリ「モルガクニ」液水晶嚢内水晶体ノ周圍ニ在ル液ニ在ル有共ニ之ヲ白内
翳ト名ツク和蘭名カテーウヱマダール 羅甸名カタラクトシエツシテ
疾病之所在
或云此疾ノ始テ人ニ発スルヤ甚タ舊シ蓋他ノ諸病ト同ク
人民有テ以来此レ有ル所ナリト〇其所在ヲ論スル丁ハ「ヘワル
シユスト」ト「カ」「シユス」両人名ラトニ始レリ即両子ノ説ニ云白内翳ハ瞳
孔内更ニ一種ノ膜ヲ生スルカ若クハ水様液ノ稠厚トナリ

テ晶雲翳スル者ナリト其後一千六百零四年ニ至テ「ケプレル」人名或云「ラスニール」ト「クリル」トナリト其説ヲ非トシテ曰此疾ハ水晶体ノ曇翳スルニ成ルト其
後「マレイ」「アイテレイーアンス」「フリッセアウ」ハ名以上三人等ミナ此説ヲ位ト
シテ其真ナルコトヲ證ス

區別

「ガレニュス」ト「オリバシュス」両人名ハ此疾ヲ別テ二種トス曰ク一ハ
水様液ノ稠厚ヨリ成リ一ハ水晶体ノ缺損ヨリ成ルト○當
今ハ其所在ニ従テ之ヲ三ニ大別ス
其一水晶体翳 和蘭名「キリスタルスソール」羅甸名「カタラクタキリスタルリナ」 是曇翳ノ所在水晶体
中ニ在ル者ナリ
其二膜翳 和蘭名「フリーシヘスタール」羅甸名「カタラクタアラニナサ」 是唯ニ水晶嚢ニノミ在ル者
ナリ

其三モルガグニ液翳 和蘭名「スタールハンホイトムンモルガグニ」羅甸名「イーニテルスチチアアリス」 是モ此
液ノ稠厚トナル者ナリ
若シ此ヲ細ニ區別セントスル時ハ将ニ其限有可ラス今唯
ニ其要ナル者ヲ摘テ細別スルコト左ノ如シ
所在ニ従フモノハ第一ニ翳唯水晶体ニ在モノ（即水晶体翳）第
二ニ水晶体ト其嚢ト共ニ病ムモノ第三ニ翳唯水晶嚢ニ在
モノ此ハ復タ三種ノ別アリ即其全周圍ニ在アリ唯前面ヽ
ノミニ在アリ後面ニノミ在アリ第四ニ翳ノ所在水晶体ノ中
心ニ始マル者第五其始ニ線ノ如ク瞳孔内ニ横ニ見ルヽ者
第六後翳 和蘭名「アースタール」術後ノ翳ト云義 是ハ施術後ニ発スル所ノ焮衝
カ若クハ水晶嚢ノ一部分残在セルヨリ復タヒ発スルモノ
ナリ

其已ニ従テハ之ヲ乳色翳「マルメル」石様翳赤翳黄翳黒翳緑翳
褐色翳等ニ別チ其質ノ剛柔ニ従テハ其剛固ナルヿ石或ハ
骨ノ如キ者ヲ石様或ハ骨様翳ト名ク其柔軟ニメ恰酥様ナ
ル者ハ軟翳ト名ク水晶体全ク融解セル者ハ流動翳ト名ケ
其稀稠殆ント傑列乙ノ如キモノハ傑列乙様翳ト名ク
若シ水晶体全ク硝子様液ト分離メ身体若クハ眼球ニ至微
ノ動キ有テモ其翳震揺スル所ハ之ヲ揺翳ト名ク○又翳ニ熟
ト未熟ノ名アリ是其適宜ノ固サヲ得ルト得サルトヲ以区別
スト虽予ハ之ヲ取ラス宜ク其翳ヲメ発セシムル所ノ因仍
ヲ害フナキノ間ハ之ヲ未熟トシ既ニ害ヲナサヽルニ至テ
ハ熟トス可シ故ニ予ハ其翳ノ流動質ナルト固質ナルトニ
拘ラス共ニ熟未熟ノ名ヲ命ス翳唯水晶体ト水晶嚢カ若ク

ハリモルカクニ液ノミニ在テ他病ヲ夾マサルモノヲ単翳ト名
ケ他ノ眼ニ害ヲナス病ヲ夾ムモノヲ合併翳ト名ク

・症候大較

凡ソ此疾ニ罹ル所ノ患者ハ其初発眼前ニ霧ノ掩カ如キヲ
覚テ其霧常ニ視ント欲スル所ノ物ヲ翳陰ス而メ其翳ノ始
メ水晶体ノ中心ニ最モ甚タシク漸周囲ニ施及ノ厚隔共ニ
増進ス此時ヨリメ患者頭ヲ傾ケ眼ヲ轉動スルニ非サレハ
物ノ形ト色トヲ明辨スルヿ难ク其疾漸ク進テ終ニ明暗ノ
他更ニ辨スルヿ能サルニ至ル此時ニ至テハ瞳孔内白色若
クハ灰白若クハ黄色ノ斑見シ瞳孔ハ尚縮張自在ナリ但シ
蒲桃膜他部ニ癒着セル者ハ而ラス

各自之症候

翳在水晶嚢ニノミ在ルモノハ之ヲ見ルニ深カラス微白色
ニメ二三ノ微白色ナルハ点翳ノ面ニ見レ其曇翳スルノ始
メ中央ヨリモ周圍ニ甚ク其増進スルヿ甚ク疾速ナル患者
物ヲ見ル毎ニ物ノ面ニ二三ノ小黒点在ルカ如キヲ覚フ但
シ此種ハ速ニ水晶体翳ト合併シ易シ
此種ノ翳施術後ニ発スルヿ有レハ甚色乳白色ニノ砕片ノ
如ク或ハ動揺スルアリ或ハ動揺セサルアリ〇水晶嚢ノ前
面ニノミ発スルモノハ帯青銀色ニメ周圍ヨリ中央ニ向ヒ
光芒ノ如キ線條見ルヽヿアリ故ニ又之ヲ星翳ト名ク此種ハ
虹彩ニ変ヲ生シ易ク且ツ後面ニ発スルモノヨリ常ニ居多
トス後面ニ発スル者ハ帯青緑色ニメ凹陥セルカ如且ツ虹
彩ニ変ヲ起スヿナシ故ニ此両種ハ自ラ別アリ

軟翳ト云ノ者ハ白色ヲ成ス翳ト思ハル

水晶体翳ハ其所在甚タ深ク中央ヨリ始テ緩徐ニ周圍ニ及
フ其終リ大抵ミナ膜翳ト合併スト雖其時間甚長シ
軟翳ニ於テハ水晶体其嚢ト共ニ着シク増大メ虹彩ニ愈着
シ瞳孔此レカ為ニ縮張ノ機ヲ失メ其動ナキヿ恰真ノ黒内
翳ニ於ケルカ如キニ至ル患者此ニ至ハ既ニ昼夜ヲ辨スル
ヿ难シ
水晶体ノ実質剛固ナルヿ石或ハ骨ノ如キニ至モノハ瞳孔
ノ縮張甚タ容易ニメ著シク縮小ス但シ其翳ノ色ハ人ニ定
ヒルヿナシ
黒翳(コウエンセルナル始テ之ヲ発見ス)水晶体ニモ水晶嚢ニモ発ス其水晶体ニ発
スル者ハ瞳孔内常ニ差フヿナク黒色ニメ瞳孔ノ縮張ハ或
ハ此アルアリ或ハ此ナキアリ水晶嚢ニ在者ニ於テハ瞳孔

ニ近接ノ二三ノ黒線見レ多クハ其翳虹彩ニ愈着ス〇加之視聴漸ク茫乎トナリ病ノ進ニ従テ透亮ノ光気假令ハ燭火ノ如キ其光其大共ニ減少スルヲ覚ルモノハ此病タルヿ益〻疑ナシ但シ此症ハ真ノ黒内翳ト混スル人アリト雖術ニ由テ治スルカ故ニ真症ト自ラ別アルヿ知ル可シ

或人ノ経験説ニ云翳ノ黄色ナルハ融解スルノ微ナリトス又云翳ノ動揺スルハ眼水腫ヲ兼子水晶体流動シ硝子様液変性スルノ徴ナリト〇然𪜈翳ノ色ノ施術ノ功ニ害ヲ成スヿ有ハ未タ確乎タル證拠ヲ得ス

モルカクニ液翳ハ帯青乳白色ニシテ其増進甚急速其液ノ量ノ著シク増息スルカ為ニ眼後室甚狭窄シ翳ノ状稍綿ノ如ク或ハ雲ノ如シ

疾病之始終

白内翳ノ始テ成ルヤ甚タ疾速ナルアリ緩徐ノ殆ント辨ス可ラサルアリ緩除ナルモノハ常ニ最多キ所ニシテ其始ノ先ツ眩暈頭痛眼窩痛ハ額痛等ヲ発スルアリ或ハ然ラサルアリ而ノ瞳孔内変ノ見ハスノ前患者先自ラ微小体ノ眼前ニ浮游スルヲ覚ヘ視ル所ノモノ恰雲霧ヲ隔ルカ如次テ速ニ瞳孔内小白班ヲ発ス

翳ノ全成スル時間ハ定レルヿナシ或ハ二三年経ルアリ或ハ尚ヲ経年彌久ナルアリ偶〻水晶体翳甚速ニ全成スルアリ多ハ是乳翳ニ於テアル所ナリ白内翳ノ究竟種〻アリ其一辛ニ吸収管一種ノ変機ヲ得テ全翳ヲ吸収シ盡スヿアリヿレ名ハ自ラ膜翳ノ獨リ消散セルヲ見レヿヲ其著書ノ

中截セテハ亡欲ハ水晶体翳ノ術ニ由ラズメ自テ融化セルヲ
実験ストイヘリ〇其二水晶体其嚢ト共ニ自ラ眼前房ニ逆
出シ或ハ硝子様液中ニ潜匿シ因テ以テ患者自ラ明ヲ得ル
ニ至ルコトアリ然レトモ此両症ノ如キハ最稀ナルコトニシテ多ハヲ
十其究竟必視瞻ヲ失フ者ナリト知ヘシ

原因

白内翳ノ因ヲ別テ二トス遠因ト近因ト是ナリ両因共ニ其
種甚多シ凡ソ其生業ノ為メ若クハ学術ノ好癖ヨリメ久シ
ク強劇ノ光氣ニ向ヒ或ハ至微ノ物ヲ視ルニ眼力ヲ費ス人
ハ殊ニ此症ニ罹リ易シトス又此疾ハ老少ニ拘ラズ此有ト
雖父母ノ遺傳アルニ非ハ殊ニ老人ニ多シトス又強烈ノ飲
液之類焼酒此カ因トナルコト屢之ヲ実験セリ又諸病中ニ於テモ

黴毒瘰癧毒壊血毒傷冷毒痛風毒ハ殊ニ以疾ヲ誘発シ易ク
又水晶体及其嚢ノ外傷ヨリ此ヲ発スルコトアリ殊ニ高処ヨ
リ直ニ飛下ル等ヨリ此ガ誘因ヲ為ス劇キ嘔吐ノ長ク擧留
スルモ亦此カ因トナル
白内翳ノ近因ハ水晶体水晶嚢及モルガダニ液ノ曇翳ナル
コト前ニ云ルカ如シ乎「ワルテル」名人ノ説ニ従ヒ且自ラ実験ニ由
テ之ヲ観ニ水晶嚢翳ハ是其膜ノ焮衝ヨリ発スルモノタル
コト疑ナシ角膜焮衝後ノ曇翳ヲ残スヲ以テモ之ヲ徴スヘシ
然レトモ水晶体翳ニ至テハ未タ明ニ然リトスルコトヲ得ス何ト
ナレハ其実質栄養ノ機轉未タ明ニ知コトヲ得サレハナリ夫
レ焮衝ヨク其部ノ栄養ヲ失ヘシメテ其実質ノ組織ヲ変シ
近傍ノ部分ト分離セシメ且ツ之ヲシメ死滅セシメ終ニ融解セ

シム可キモノナランニヤ凡ソ身体何レノ部ニ於テモ液ニ觸テ融解スルノ部ナキニ水晶体ハ特リ水様液ノ觸ニ由テ融解ス此ニ由テ之ヲ観レハ水様液特リ翳ヲ融解スル一種ノ性ヲ備フル者カ此等ハミナ疑ヲ存ス後ノ君子ヲ俟ツ

他病合併

他病ノ合併スルハ此疾ニ最多之アル所ニシテ治術ニ害ヲナス事甚タ少カラス宜ク其合併シ来ル所ノ諸病中何レカ最害ヲ為コトヲ詳ニ監察シ先其病ノ根ヲ断チ而シテ後ニ始テ術ヲ施可シ然サレハ妙手ト雖必其効ヲ誤モノナリ

合併病ニ二種アリ一ハ全身ノ病ナリ一ハ一部ノ病ナリ全身ノ病トハ即黴毒瘰瀝頭瘡毒病等ノ属是ナリ一部ノ病ハ結膜病角膜病虹彩病水様液病硝子様液病網膜病等是ナリ

白内翳ニ合併スル結膜病ハ眼瞼及結膜ノ傷冷毒病并ニ疾ニ偏最甚タ曇翳極度ニ至ルニ非ンハ其疾退カス故ニ先ツ術ニ先テ適宜ノ療法ヲ施サスンハアラス○脈瘤様腫ハ屢発セハ焮衝カ若クハ緩和剤ノ通用ヨリ発スルモノニシテ其所在結膜ニアル有脈絡膜ニアル所ノ者虹彩ニ在アリ共ニミナ先適宜ノ薬剤カ外科術ニ由テ之ヲ治シ而后ニ翳ノ方術ヲ處スヘシ

角膜病ハ班点ト蒲桃腫トナリ○班点ノ大ナル者ハ角膜上面一部ノ腫瘍若クハ焮衝ニ由テ其膜間（角膜ハ数膜重襲シテ成ル）ノ組織網窄トナレルモノニシテ殊ニ其班瞳孔ヲ蓋フトキハ大ニ施術ヲ妨クル者ナリ　以下原文難解

○蒲桃腫ハ剛膜ニ発スルアリ角膜ニ発スルアリ虹彩ノ脱弛

ヲ兼ルアリ共ニ皆白内翳ニ合併スル所ノ難治ノ病ナリ瘀
膧モ亦其所在ニ拘ラス皆然リトス
虹彩病ハ焮衝ト癒着ト瞳孔ノ窄小トナリ○眼ノ焮衝ハ総
テ其内部殊ニ虹彩ニ及ホハ必ス終ニ内翳ヲ発スルヿ尤常ナ
リ況ヤ此時ニ於テ術ヲ施サハ其焮衝益増進シ卒ニ其眼ノ
全質ヲ失スルニ至ラシヿ必セリ故ニ焮衝諸症ノ全ク減退
シ去マテハ施術ノ期ヲ延スヿ眼科ノ常則ナリ○虹彩ノ癒
着ハ角膜ニ癒着スルト水晶嚢ニ癒着スルトアリ共ニ皆劇キ
焮衝ヨリ発ス而此ニ一部ノ癒着ト全部ノ癒着トアリ一部
ノ癒着ハ瞳孔ノ常形ヲ失スルヲ以テ知ル可シト雖全部ノ
癒着ハ甚タ辨知シ難シトス共ニ宜ク先其癒着ヲ分離セズ
ンハアラス○瞳孔窄小ハ偶他ノ疾ニ兼ルヿ無ク〆特リ発

スルアリ焮衝ニ由テ他部ニ癒着スルヨリ発スルアリ其癒着
ニ由ルモノハ治シ難シトス他疾ヲ兼サルモノハ莨菪及非
沃矢亜謨斯ノ如キ麻剤ヲ外用シ一時ノ張擴ヲ得可シ
膿眼ト眼水腫ハ最多ク内翳ニ兼発スル処ノ者ナリ
○膿眼ハ角膜実質ノ嚢間ニ発スル膿瘍ヨリシ眼前室若ク
ハ両室ニ膿ノ充盈スルナリ若シ其膿溢出シ或ハ分離滲出
スル等ニテ角膜ノ嚢間ニ凝固スルトキハ斑点トナル其斑点
トナル其斑点著シク大ニシ瞳孔ヲ蓋フトキハ亦内翳ノ施術ヲ
妨ク○眼水腫ハ水様液分泌ノ過度ナルヨリ発シ或ハ角膜
裏虹彩前ニ透明ナル一種ノ膜ヲ生スルヨリ発シ或ハ唯水
様液吸収ノ度ノ微ナルヨリ発シ或ハ硝子様液水晶液等ノ
融解スルヨリ発シ或ハ焮衝ヨリ発ス眼水腫ハ亦屡ヨク深

ク眼底ニ発スル所ノ瘤腫ノ前徴トナルヿアリ
硝子様液病ハ常ニヨク内翳ノ施術ヲシテ其功ヲ誤ラシムル者ナリ其病ノ大ナルモノ三アリ　即綠翳乾燥及其化骨是ナリ
綠翳ハ合併病中至悪症ノ一ニシテ全ク視聴ヲ妨ル者ナリ人若シ白内翳ノ縁ヨリ眼底ヲ窺フニ其色常ナラサルモノハ必此病ノ合併スルナリ此症ニ於テハ方術更ニ功アルヿナシ○硝子様液乾燥ハ甚稀ナリト虽予亦自ラ実験セルヿアリ其液ヲ包裹スル所ノ薄膜常形ヲ有スルヿ能ハス皺縮ノ其中ニ浮懸シ至微ノ挙動ニモ必動揺ス故ニ揺翳ハ多此症ヲ兼ルモノナリ此症モ亦術ニ由テ視聴ヲ得ルヿ難シ○硝子様液化骨ハ其栄養常ヲ失スルヨリ発スルモノニシテ常ニ真ノ黒内翳ト混シ易シ而シテ共ニ難治ノ症トス

真ノ黒内翳ト白内翳ト合併スルヲ辨別スルヿハ甚難シトス諸家ミナ瞳孔ノ散大スルヲ以真ノ黒内翳ノ徴トス然トモ此症ニ於テモ瞳孔縮張自在ナルヿヲ得ル者屢此アリ而レモ其瞳孔散大シテ患者水晶体ノ周圍（即翳ノ最薄キ部分ナリ）ヨリ毫モ光輝ヲ透見スルヿヲ得ヤ加之ニ虹彩全ク運動スルヿ無キモノハ此病ノ合併タルヿ疑ナシ○且ツ黒内翳ノ真症ハ其病甚シク次序ナク其患者一時ハ物ヲ見ルヿ明カニ一時ハ全ク見ルヿヲ得サルモノニシテ単症ノ白内翳ハ如此キ症候絶テ之ナキヿヲ預メ常ニ理會セ得ハ庶幾クハ誤認スルヿ少カラン

前見

内翳施術ノ功ハ患者ノ年齢ニ應シ愈着ノ有無ニ應シ合併病ニ應シ頭面ニ應シ人ニ相差カ故ニ預メ概見シ難シトス

○凡ソ少壮ノ年齢ハ術ヲ施メ善功ヲ得易シトスト雖極老
ノ徒モ亦功ナキニ非ス「ペルリール」人名曾テ百六歳ノ老人ニ術ヲ
施メ功ヲ得タリト云（但シ此患者ハ二十二歳ノ時ヨリ其視聴ヲ失フ者ナリトゾ）又嬰児ニ於テハ
術ヲ施ニ宜ク戒慎メ意ヲ用ヒスハアラスト雖、或人ノ説ノ如キ
モノニ非其説ニ云フ宜ク嬰児ニハ施ス可ラス稍年ノ長スル
ヲ俟可シト「テセルデン」人名「ペアイ」人名「ワーレ」人名等ハ皆此説ヲ非ト
セリ○虹彩ノ運動自在ニメ且ツ假令癒着スル所アルモ至
微ニメ著シカラサル者ハ施術ニ害ナシトシ且ツ外見合併病ア
リテ功ヲ得難キカ如キモ術ヲ施メ却テ善功ヲ得ルヿアリ
唯眼内ノ感動最甚シキモノニハ術ヲ施スヿ勿レ其刺戟ニ由テ非常
ノ害ヲ招クヿアレハナリ○早醫ノ總テ治シ易シトスル時トメ
ハ此症術ニ由ルヿナク自然ノ良能ニ由テ自ラ治シ視聴故

ニ復スルモノアリ

預防方

唯既発ノ翳ノ治スルノミナラス亦タ未タ発セサルヲ預防
スルヿモ眼科ノ要務ナリ故ニ總テ眼ニ害ヲ為ス可キモノ
ハ皆此ヲ避ケシメ既ニ其害ヲ受ルモノハ務テ此ヲ除カンヿ
ヲ要ス可シ○初生児ニ於テ過度ノ光気遽ニ其眼ニ觸ルヽ
ヨリメ生涯ノ害ヲ残スヿ屢此レアレハ皆人ノ知ル所ナリ且
眼ノ諸器ハ薄弱ニメ焮衝ニ罹リ易ク其焮衝ヨリ眼ノ諸病
ヲ誘発シ就中ヨク白内翳ヲ発セシムル者ナリ是故ニ總テ
強ク視力ヲ費モ亦至害アリ宜ク此ヲ慎マシムヘシ○若シ既
ニ白内翳ノ発セル徴候アル片ハ力ノ所及（ナルタケ）務テ其全成ニ進ヲ
防可シ之ヲ防ニハ眼ニ光線ノ入ヲ少クスルヲ佳トス「コヒリン」

人各嘗テ此ニ用フルニ内翳管ナルモノヲ発明ス是レ唯ニ要用ナル所ノ事物ノ他更ニ他物ヲ見得サラシムルノ器ナリ

内科術

水晶体若クハ其嚢翳ヲ復故セシメンカ為ニ古来種々ノ内科術ヲ施モノアリト雖未曾テ一モ物ヲ得シモノアラス偶適當ノ翳薬ニ由テ既発ノ翳ヲ消散セシメタリト云ノ例アリト雖此ノ如キハ甚タ稀ナルカ故ニ未タ信拠スルニ足ラス

施術月時之擇

世人一般ニ云白内翳一眼ニ発スル片ハ宜ク他眼モ亦之ニ罹ルヲ俟テ術ヲ施スヘシト拠アルニ非他人ノ所謂翳ヲ熟ナルモノモ亦功ニ利害ヲナス者ニ非唯翳ノ白色増進メ針ノ作用白在ナル片ハ術ヲ施ヲ佳トスルノミ月時ノ擇ヒニ於テモ亦然り夫レ冬ハ最傷冷毒ヲ受易時ナレ氏之ヲ施メ害ナキヲ況ニヤ他時シヤ四時共ニ施ノ害ナキヿハ実験ニ由テ之ヲ知レリ

・患者預

古昔ハ施術前患者ニ種々ノ預備ヲ為サシメタリト雖當今ハ之ヲ用ヒス何者唯是患者ヲ衰弱セシムルノ迄ニテ利用アラサレハナリ而レ氏施術前一二日ハ緩ナル下剤ヲ与テ飲食ヲ節セシム可シ是腸胃ヲ清浄ニメ咳衝ヲ防ンカ為メニ肉食ヲ禁スルモ亦佳トス又施術前ニ阿片少許ヲ与ヘ瞳孔窄小スル者非沃矢亜護斯越幾斯剤若クハ莨菪ノ溶液ヲ眼ニ滴入ス可シヨリ患者ヲ静思セシメテ術ヲ施スニ容易ナラシムヘシ

外科術

白内翳ハ自然良能ノ力ヲ独能ク之ヲ治スルヿ能サルカ故

ニ人ヨリ之ノ扶助ヲ為サスハ有ヘカラス其扶助ハ唯外科術
ノミ而〆其術タルヤ唯視瞻ヲ害スルモノヲ除キ其機能ヲ
復故セシムルニ在リ○當今ニ至テハ其術実ニ精ヲ極テ殆ント盡
セリ而〆其得ル所ノ功ハミナ同一ナレ𪜈之ヲ用スルノ方法ハ
種〻アリテ一ナラス而レ𪜈之ヲ總フルニ其方法唯二ニ出テス
一ハ眼内ニ於テ水晶体ノ位置ヲ走スルナリ一ハ更ニ孔ヲ穿テ
之ヲ外ニ出タスナリ○此ニ術ノ用法ニ各二種ノ差アリ一ハ角
膜ヨリスルナリ一ハ剛膜ヨリスルナリ○其眼内ニ在テ位置ヲ変
セシムルヲ擠下方和蘭名「ナーデンドリユツキング」羅甸名「デプレツシヨ」ト名ケ孔ヲ穿テ外ニ
出タスヲ剔出方和蘭名「ウイトネーミング」羅甸名「エキスタラクチヨ」ト名ケ角膜ヨリスルヲ剌
角膜術ト名ケ剛膜ヨリスルヲ剌剛膜術ト名ク此両術ノ用法
ハ家〻相差テ取捨議論紛〻ナリト雖施術前ノ常則ハ共ニ

相同キモノアリ故ニ先ツ其常則ヲ説テ而〆后ニ各個ノ方術ヲ
説ントス

・施術前之常則

術ヲ施スノ室ハ光気ヲ適宜ニシ患者ハ椅ニ靠ラシメ椅ノ欄ハ
宜ク高〆患者ノ頭ヲ仰テ光線ノ梟ニ接〆眼ニ入可ナラシム
可シ強キ〆禁ス光氣強ケレハ虹彩之カ為メニ縮張スレハナリ
又水晶体ヲ擠下スルカ剔出スル少時間ハ他ノ一眼ヲ閉シム
ヘシ□補者一人患者ノ背後ニ立テ其頭ヲ胸ニ受ケ手ヲ其
頭ニ置テ其手ノ示指ヲ以テ眼瞼ヲ掲ケ他ノ補者ハミナ其側
ニ居テ術者ノ用ヲ待ツ可シ○定瞼子原名オーグリツトハウデル眼瞼ヲ維持固定スル具ハ
故「アバツワヘンデン」ニ人ノ名カ始テ発明スル所ニ〆近来大ニ其製ヲ修繕
セリ此器具ハ其眼小ニ〆深ク眼窩ニ沈ムモノカ或ハ患者自

テ静止スルコト能ワサル者ニ於テハ殊ニ最有用ノモノナリ但シ此
器ハ眼ヲ壓迫スルコトノ最微ナキヲ以テ上品トス若シ此ヲ用ヒントスル
時ハ其患者ノ背後ニ立ツ所補者ニ命ス可シ○術者ハ宜ク患
者椅ヨリ高キ椅ニ居テ其足ヲ患者ノ椅ノ階子ニ置ヘシ其手
ヨク固定ヲ得ルモノニ而レトモ術者各々慣ル所ニ従テ其宜ヲ得可キ
ナリ

白内翳治術集論二

擠下方并・刺剛膜術

曇翳セル水晶体ヲ擠下スルコトハ殆ト二千年来白内翳ヲ治スル無
二ノ方術トメ世ニ行レタリ故ニ同テルシユス之（蓋シ此方ヲテ発見スル人）如ノ方術著書
世ニ傳ハルコト久シ此人ノ法ハ右眼ノ翳ニハ左手ヲ用ヒ左眼ノ翳ニ
ハ右手ヲ用テ其鍼ハ銀ニメ甚タ細ソカラス直ニメ両側ニ刄アリ而
メ之ヲ刺スヤ外眥ノ剛膜ヨリ瞳孔ニ向テ入レ水晶体ノ処ニ至テ
其翳ヲ上ヨリ下ニ向テ擠シ、且少間翳モシ再ヒ上ルコトアル時ハ之ヲ数
次ニ切砕テ深ク沈マシメ而メ后ニ其鍼ヲ抜ク
此方術世ニ行ハル、久シカリシニ「フランス」地名ニ於テ剔出方ヲ発明セシ
ヨリ少シク衰ヘタリ然氏尚「イタリー」地名及此國ニ於テハ盛ニ之ヲ

用ヒ且ツ「コアハパヒ」名人カ此方ヲ中興セシヨリ再ヒ後世ニ採用スルニ
至レリ此人ハ其鍼ノ製ヲ大ニシク改テ稍扁平ト為メ其尖ヲ鈎
ノ如クシ長ヲ甚タ鋭クナシ扁ナル方ニ鈎リ鈎腹ノ方尖端ニ至ル
マテ魚骨ヲ附接ス（第一板四ノ圖）是レ水晶体ノ前面ヲ破リ易カランガ
為ナリ而メ其手術ヲ施スヤ左ノ如シ
左眼ノ翳ニ於テハ先ツ鍼ヲ右手ニ取テ鵞管ヲ持ツカ如ニ下瞼
ヲ下ニ曳キ補者ヲシテ其頭ヲ力所及固保シ併セテ其瞼ヲ上
ニ掲ケシメ而メ其鍼ヲ持スル手ノ余指ヲ顋顬ニ當テ鍼ノ後復
顋顬ニ向ケテ外眥ノ方角膜際ヲ距ル一「レイン」許ニ當ル翳ノ処瞳孔
ノ横中径ヨリ少シク上ニ偏スル部位ヨリ刺ス但シ其鍼刃ヨリ虹彩ヲ
モ毛様捩（原名ハイルウユリセフルレニツセル）ヲモ毀傷セサラン為ニハ一「レイン」半ノ處ヲ

而メ后ニ其鍼ノ柄ヲ徐ミニ顋顬ヨリ遠サケナカラ鈎リニ従テ之ヲ
進メ鈎端全ク眼球内ニ入ル井ハ其鍼ノ鈎腹ヲ水晶体ノ上部ニ至
ラシメ下ニ向テ之ヲ擠メ徐シク其位置ヲ変セシム但シ鍼ハ其始メ
宜ク毛状体ト水晶嚢トノ間ニ在ラシメ次ニ之ヲ虹彩裏面ト水
晶嚢トノ間ニ来ラシム是時瞳孔ニ見ハシムルヲ目的トス之ヲ要
スルモノハ是モシ其鍼水晶嚢ト水晶体トノ間ニ入テ唯ニ水晶体ノ
ミヲ硝子様液中ニ擠シ入ルヽ「アレ」ハ其嚢残テ後翳ヲ生スレハ之
而メ其内眥方ニ向ヘル鍼尖ヲ正横ニ水晶体ノ中心ヲ越テカ
所及水晶体及其嚢ノ内眥方ノ縁ニ密通セシメ而メ后ニ鍼ノ柄
ヲ以シク己レノ方ニ傍セル意ニテ鍼尖ヲ水晶嚢ト其体ノ実質ニ
刺シ入レ半輪状ノ動ヲ以テ弱シク其嚢ノ前面ヲ截破リ以テ嚢
ヲメ瞳孔ノ部位ヲ去ラシメ以テ瞳孔ヲメ圓ク黒ク視瞻ニ害ナ

キヿヲ得セシメ而メ后ニ鍼ヲ其マヽニ暫ク止メナシク捻テ固着テ離
レ之ヲ抜ク又後翳ニ於テ之ヲ眼前室ニ出タシ融解セシムルモ其
術意全ク同シ
又此方ニ於テ其翳鍼ヲ滑脱メ深ク硝子液中ニ潜リ入ルヿア
リ然ルトキハ宜ク其マヽニ置ク可シ殊ニ其水晶嚢既ニ破ルヽモノニ於テ
ハ然ルヲ佳トス又其曇翳セル水晶体眼前室ニ逆出スルヿアリ此症
ハ即チ「エイヘス」名人カ始テ偶爾ス剔出方ヲ発明セシ所ノモノニメ「アニ
シツウクス」名人「ヨヘル」名人等其マヽ融解セシメ可キヿヲ云ト雖数年間
融解セサルモノ多キカ故ニ宜ク其他症ヲ継発セサルニ先テ其翳
ノ出ス可キ道路ヲ為サスンハアラズ而レ𪜈先ツ老気ヲ減メ瞳孔ノ張
擴スル度ヲ見其張擴ヨク翳ヲ入ル可キ許ナラハ再ヒ翳ヲ其
内ニ入レテ搾下スルヲ佳トス

「ヘエノ」名人「ワーレ」名人ノ方術モ共ニ「シアルレバ」ニ差ハスト雖唯「ワール」カ軟翳
及流動翳ニ施ス術ハ大ニ差ヘリ即唯水晶嚢ヲ切破ルノミニメ
其他ヲ水様液ノ融解力ニ任カスナリ其用フル所ノ鍼ハ細クメ其
長一寸許其尖鋭ク其端八分一許ノ間一側ニ刄ヲ設ケ尖ヨリ
柄ニ至ルニ従テ漸次ニ太カラシム而メ施術前先ツ莨菪越幾斯剤
ノ溶液ヲ眼ニ滴入シ若クハ其瞼ニ塗擦シテ瞳孔ヲ開カシム其方
術左ノ如シ
患者ヲ其高サ適宜ナル椅子ニ坐セシメ若クハ枕ヲ高セル上ニ臥サ
シメ定瞼子ヲ以テ上瞼ヲ固定セシメ外眥方角膜ヲ距ルヿ一
レイン強ノ処ヨリ剛膜ヲ刺メ其鍼ヲ入ル但シ鍼ノ鈍側即刄無キ方
ヲ上ニ向ハシム而メ其鍼ノ水晶体ニ届クトキ尖端ヲ前ニ倚セテ眼
前室ニ見ルヿホトナラシメ其翳軟質カ流質ナルトキハ唯ニ其水晶嚢ヲ

破ノミニメ鍼ヲ抜キ其排泄セル濁汁ノ吸収ヲ俟ツ其吸收ハ二三日ヲ経テ盡スアリ唯一二時ニメ盡スアリ而后ニ尚瞳孔内ニ変ヲ見ル片ハ再ヒ鍼ヲ入レテ之ヲ縦横ニ分截シ以テミナ眼前室ニ出ス若シ其翳同質ナルコヲ見ル片ハ擠下ノ水晶嚢ノ後面ニ影ク切破リ直ニ其鍼ヲ抜ク若シ又其翳水晶嚢ニノミアル片ハ其嚢ヲ体ト共ニ分截ノ微小片ト為シ亦タ之ヲ眼前室ニ出シ徐ミニ吸収セシム

サウンデルス人名カ先大ノ翳ニ施セル後術（書ニ虹彩後ノ術ト云フ義）ナル者ハ「ア」ニセル止和蘭カ譯書ニ詳カナルカ故ニ之ヲ爰ニ唯「ヘル、ム」カ語ヲ引ヲ以足レリ人名トス

「ヘル、ム」曰「サウンデルス」君ノ術ヲ施サハ鍼ヲ虹彩後ニ入テ鍼尖ノ瞳孔中ニ届ル片水晶体ヲ其嚢ト共ニ切開キ以テ水様液ヲ滲入セシメテ吸収ヲ為サシム而ルフ後ナ自ラ方ヲ揆テ鍼ヲ角膜ヨリ入レテ之ヲ前術ト名ク是其意ニ以為ラク角膜ヲ刺スハ其焮衝ヲ起スフ少ナシ且ツ此術ニ於テ尚ヲ焮衝ヲ発スルフアルハ是レ其刺ス処ニ係ラス唯翳ヲ動カスト之ニ由テ虹彩ノ動クトニ在ノミ而レ圧唯翳ヲ動カスノミニメ焮衝ノ発スル者ニ非ルフニ是ハ此レ瞳孔ヲ開カント為ニ用フル所ノ莨菪ノ所為ナリ故ニ予ハ後術ヲ勝レリトス後術ハ唯鍼ヲ常処ヨリ入レテ水晶嚢ヲ破ルノミナルカ故ニ先タテ瞳孔ノ潤開スルフヲ要セサレハナリ而レ圧術後ニ於テハ莨菪ヲ用テ瞳孔ヲ開カシメスンハアラス然ラサレハ翳ノ虹彩ニ愈着スル恐レアレハナリト

「アタルヒ」名人ハ其吸収ヲ速ナラシメンカ為ニ翳鍼ヲ以テ水晶体ヲ截分ス其鍼ハ直ニメ甚鋭ク尖ヨリ柄ニ至マテ刃ヲ備ヘ之ヲ剛膜ノ常処ヨリ眼ニ入レテ先ツ翳ヲ横ニ截チ其各ヲ種々ニ分截シ共ニ水晶

嚢卜毛様堤卜粘着スル所ヲ截リ離シ其砕片ヲ盡ク鍼ノ扁面ヲ以テ眼前室ニ出シ以テ其融解ヲ自然ニ任カス

「ベール」氏ノ説ニ老人殊ニ其翳ノ固キモノニ在テハ全ク吸収セス或ハ然ルヿヲ得ルモ甚タ難シトスト雖ヿ「アソ」氏ノ術ニ由ルトキハ尚之ヲ速ニ吸収セシムルヿヲ得ヘシ何トナレハ彼レハ鋭尖ノ翳鍼ヲ以テ片々ニ分截スレハナリ

擠下方下

剌角膜術

爰ニ挙ル所ノ剌角膜術ハ啻ニ擠下スルモノノミナラズ水晶体及ヒ其嚢ヲ破リ或ハ唯其嚢ノミヲ截分テ其体ノ位置ヲ変セシメサルカ故ニ擠下方ノ字義甚タ當ラズト雖ヿ剌剛膜術ノ擠下方中ニモ此類ヲ載セシメ如ク唯其方中ノ変法トノミ之ヲ見ルヘシ

剌角膜術ハ他ノ方術ニ比スルニ最モ新ニシテ吾人ノ重貴称用スル最モ甚タシキカ故ニ今既ニヨク修正ヲ極盡シ毫ヲ加フル所ナキニ至レリ

蓋シ此方術ハ家々各々自己ノ発明トシ自負主張スルカ故ニ其眞ニ発明スルノ人ヲ辨シ難シ即チ瞎児剌亜ニ於テハ「ギアワ」氏名ノ人ト「サウンデル」氏名ノ人トヲ以テ発明家トシ払良斯ニ於テハ「タルクヒ」氏名ノ人ト「モニタイレ」氏名ノ人トヲ以テ発明ノ人トスル等ナリ然レ𪜈其諸家ノ始テ此方術ヲナセル歳月

ト其術ノ功拙トヲ比較スルニ之ヲ以テ始テ規矩正シキ一個ノ方術
タラシムルモノハ「ビユワホル」ニ人名ナリ
此方術ハ千七百年中暗厄利亜ニ於テ「チエルクエト」人名之ヲ其書ニ著
シ次テ「マウサルット」人名「リクテル」人名「ポット」人名「ペール」人名「ゲレース」人名「コンラヂ」人名「シ
カルパ」人名等ノ著書出テ由テ世ニ公行スト雖諸名家此時ニ至テ曽
テ発明スル者アラサリシコト実ニ異トスルニ堪ヘタリ
此方術施法ハ適当ノ鍼ヲ以テ角膜ノ一点ヨリ刺シ瞳孔ノ中ニ入
レテ水晶体ヲ擠下スルカ若クハ之ヲ分截メ吸收セシムルニ在リ
水晶体敗傷スルコトアレハ必ス吸收ニ由テ消散スルコトハ刺角膜術発
明ノ已前已ニ世ニ明カナリシナリ何者意太里亜國ノ「マテオリユス」人名
スラ既ニ之ヲ知レリ即チ其書ニ金ノ線條（ハリガネ）ヲ管ニ夾ミ唯之ヲ以
テ翳ニ破ルコトヲ云ヘリ「ペル」人名モ亦已ニ之ヲ知レリ其書ニ云フ術后翳

ノ一部眼中ニ残レル尼恐ルヽニ足ラス終ニ吸収シ去ルモノナリト「リクテ
ル」人名及「ポット」人名又此事ヲ證ス即チ「ポット」ノ説ニ曰水晶嚢敗傷メ水
様液之ニ滲入スルトキハ假令其始メ雲翳ノ視瞻ヲ妨ト雖時日ヲ
経ルニ従テ漸ク融解シ（症ニ依テ遅速アリ）終ニ全ク消散メ較半タル鮮明ノ視
瞻ヲ得ルコト恰モ妙手ノ術モ受タルモノヽ如シ
「ケレイセ」人名ノ術ヲ施ニ鍼ノ角膜ノ側ニ偏セル処ヨリ刺メ翳ヲ擠下ス
「コンラヂ」人名ハ此方ニ由テ更ニ一種ノ術ヲ工夫ス其用フル所ノ鍼ハ「ランセッ
ト」状ノ細キ翳鍼ニメ之ヲ角膜ニ刺シ瞳孔ニ入レテ水晶嚢ヲ影ク截
開シ其他ヲ吸収力ニ任カス
千八百零六年ニ「ビユフホル」人名カ刺角膜術ノ書ヲ著セルヨリ此術
漸ク盛ニ世ニ行ワレ其後「ランゲヘツク」人名及「ヒムレイ」人名カ「ゴツチンゲン」
地名ニ於テ之ヲ施行ヒシヨリ益々盛ニ広ク欧羅巴州中ニ普撮スルニ

「モンタイン」カ用ル鍼形ヲ挙ク

至レリ
「レイオニヒ」氏「モンタイン」人名千八百十三年ニ尋常ノ剌角膜術ト差フ所ノ一種ノ新法ヲ発明シ自ラ以為ラク此方術ノ祖ナリト是人北國ニ在ニカ故ニ「タルタラ」人名カ拂良斯ニ於テ已ニ此ヲ其書ニ著サシヿヲ知ラサレハナリ其方術殆ント暗尼利亜ニ於テ「サウデル」人名カ発明シ「ギブソン」人名ニ非斥サレシモノト彷彿タリ
「ビュフホルン」人名カ用フル所ノ鍼ハ「ミカルバ」人名ノ翳鍼ト同クメ少シク差ヒ「ランゲンベック」人名カ用フル所ノモノハ「ミカルバ」ノ鍼ヨリ細ソク其尖三稜ニメ切ル可クサシク鉤リテ其頸ヲ稍細クシ（之ニ剌ス三當テ障碍ナカランカ為メニ）夫為ヲ距ルニ従テ漸次ニ大ク且ツ圓クス（第一板第三圖）「チジット」人名「ガラー」人名等カ用ル所ミナ此ニ大同小異ナリ「モンタイン」人名カ用ル所ノモノハ其長五寸許其末ト圓ク尖端鈎状ニメ両側刄アリ「サウンデル」人名カ用ユル所ノモ

ノモ両側刄ノ鍼ナリ施術前先ツ瞳孔ヲ麻痺セシメテ開闊スルヿヲ要ス爰ニハ菲沃失亜謨斯及莨菪ヲ佳トス其法両菜ノ越幾斯何レカ一刄ヲ取テ半匁ノ蒸餾水ニ溶ミ其一二滴ヲ眼ニ點滴スルカ若クハ其越幾斯剤ヲ「ローム」ノ稠トナシ之ヲ瞼ニ塗擦シ以テ瞳孔ヲ開カシム
「ランゲンベック」人名ハ「ビュフホルン」人名ノ方術ヲ改テ修正スルヿ甚ダ益セリ故ニ吾輩ノ方術ミナ「ランゲンベック」ニ従フ是故ニ今先ツ「ランゲンベック」ノ方術ヲ以テ第一ニ挙ク
其術ヲ施スヤ左眼ノ翳ニ於テハ鍼ヲ右手ニ取テ鵞筆ヲ持カ如クシ其小指ヲ頬ニ當テ、其手ノ固定ヲ得ル但シ右眼ノ翳ニ於テハ其小指ヲ鼻下ニ置ク而メ后ニ其鍼ヲ角膜ノ上部ヨリ下ニ向テ剌シ入レテ其鈎背ヲ水晶體ノ前面ニ中テシメ其翳固質ナル片ハ盃鍼

按スルニ七圖ハ之ノ上二ノ図ノ誤ナルヘシ

柄ヲ高ノ其尖端ヲ下ニ抑シ以テ水晶体ノ上縁后ニ向ヒ下縁前ニ
向ヿ可クナサシメ其痞深ク之ヲ硝子液内ニ擠下スモ亦其翳軟質ナル
片ハ之ヲ無数ニ截分ケ其砕片ヲ盡ク眼前室ニ出ス
前ニ云フ所ノ「ランゲンベツク」ノ鍼ハ唯擠下方ニ用フル所ノモノニシテ其翳ヲ
破ルニ用フル所ノモノハ其能ク截ルヿノ鋭利ナランカ為メ少シク其製
ヲ変ス即其鉤背ニ鋒刃ヲ設テ鉤腹ヲ鈍ニシ其幅ハ前ニ異ナルヿ
ナク（但シ擠下ニ用フルモノハ鉤背平ニシテ鉤腹ニ刃アリ）其刃ノ部ヲ両扁平面トナシ頸及其他
ノ部ハ形状大小ミナ刺角膜鍼ト差フヿナシ此鍼ヲ「ケラトメ」ト名
ツク（第三板七ノ圖）
此鍼ノ用法ハ其頸ノ部分（即其刃ノ終ル所）ヲ示指ノ爪間ニ（即按ニ指方ノ爪際ナリ但シ其爪ヲ切テ短クスルヲ佳トス）受ケ共ニ其同指ヲ以テ下瞼ヲ下ニ曳キ右手ノ環指頸ヲ左手ノ拇
指頭ニ接シ以テ術中押壓ノ害ナカランヿヲ欲ス（但シ左右眼共ニ常ニ右手ヲ用フ）次

ニ其示指ヲ少シク上ニ進テ角膜ヲ下ヨリ上ニ向テ刺シ其鍼ヲ翳ニ届ラ
シム而シテ后ニ鍼柄ヲ起シ翳ヲ上ヨリ竪（タテ）ニ截ルヿ二回次ニ鍼ヲ轉シ
内背ヨリ外背ニ向テ横ニ之ヲ分截ス其砕片ハ小様液ノ溢出スルニ従ヒ
鍼ノ動ニ従テ自ラ眼前室ニ出ツ
彼レ自ラ屢試ムルニ此鍼ハ眼ニ入ルヿ甚タ容易ク少シモ損挫ヲ起ス
ヿナク翳ノヨク截ルヽヿ己前ノ鍼ノ比ニアラズト云然レ𪜈擠下スニハ
尚己前ノ鍼ヲ用フ
「モンタイニ」氏ハ自ラ患者ノ背后ニ立テ其頭ヲ胸ニ受テ補者二人ヲ
置キ一人ニハ患者ノ両膊ヲ持タシメ一人ニハ其頭ヲ持タシメ鍼ヲ角
膜中心ノ正横外眥方ノ剛膜際ヲ距ルヿ一「レイン」許ノ処ヨリ刺シ其
鍼尖ノ瞳孔中心ニ至ルトキ一轉シ鍼ノ扁面ヲ正横ナラシメ以テ之ヲ水
晶体ニ刺シ稍ヽ動カシテ之ヲ水晶体ノ上ニ至ラシメ上ヨリ下ニ向ヒ

徴、円ヨリ外ニ向テ眼后室ノ下部ナシク外皆ニ偏ムル処ニ擠下シ而后
ニ之ヲ抜ク

「モンタイニ」名人ハ古来ノ方術ニ缺ヲ補ヒ誤ヲ正メ大ニ之ヲ修繕セルノ人
ナリ其功ノ尤大ナルモノ二アリ一ハ擠下方ヲ施ニ月時ヲ擇バサルナリ
一ハ擠下方ヲ施ニ其翳モシ動キ難キヿアルトキハ先ツ其繋着ヲ
其鍼尖ニテ截リ離シ二三日ヲ経テ施術ニ妨ナク毫モ傍症ヲ
発スヿヲサルヿヲ見定ムルニ非レハ再ヒ擠下スルヿヲ為サルナリ是故
ニ十日十五日乃至三月間ニ数回鍼ヲ入ルヽノミニテ術ヲ畢カルヿ
間ヽ此レアリ

先天ノ翳ハ水晶体翳アリ膜翳アリ両翳相並ルアリト虽多クハヒ
ナ膜翳ナリ故ニ「サウニデルス」名人ガ偶尓ニ発見セル方術ニ由テ多ク人
ヽノ治スル者ナリ

一男子誤テ木刺ヲ以テ眼ヲ毀傷スル其刺角膜ヲ貫テ虹彩ノ縁
ヲ傷リ水晶嚢ニ及ブ次テ白内翳ヲ発シ劇シキ焮衝ヲ兼子虹
彩内皆ノ方ニ於テ一部ニ癒着セリ焮衝ノ治スル后莨菪ヲ用テ
瞳孔ヲ開キ見ルニ翳前面十字形ノ割目アリテ水晶体綿ノ如
キ状ヲ為ス后数日ヲ経テ其翳全ク融解消散シ瞳孔清潔ヲ
得ルヿ恰モ術ヲ施セルカ如シ

「サウンデルス」之ヲ見テ新タニ嬰児ニ施ス可キ一術ヲ発見セリ是児
ハ眼ノ轉動甚タシキカ故ニ擠下剔出両ナカラ施シ難ケレハナリ其
法唯細キ叉鍼（第一板第五圖）ヲ以テ緩徐ニ水晶嚢ヲ截破ルノミ彼レ此
方術ニ由テ功ヲ得ル者七十人中ニ五十二人有シト云ヘリ而メ其術ヲ
施スヤ左ノ如シ

先ツ患者ヲ几上ニ臥サシメ固ク其体ヲ定テ動クヿ勿ラシメ司ルサー

ル」人名ノ定瞼子ヲ以テ上瞼ヲ揭ケ鍼ヲ角膜ノ剛膜ニ近邇スル処ヨ
リ刺シテ其尖端ヲ瞳孔ノ中心ニ至ラシム以下「ハルレ」人名ノ語ヲ以テ之
ヲ補フ

「ハルレ」曰彼レ「サウニテルス」ヲ作ス其鍼ヲ横ニ微動シ（但シ其動瞳孔ノ常形ノ全径ニ過キサランコヲ要ス）
鍼ノ刃ト尖トヲ以テ水晶囊前面ノ中央ヲ截開ク其截ルヤ十分
ノ孔ヲ開ヘシ之レ術后其創口ノ互ニ閉着セサランカ為ナリ其囊
ニ孔ヲ開テ后チ再ヒ鍼ヲ其体ノ実質中ニ入レ意ヲ用テ緩徐ニ
其組織ノ截開キ而后ニ鍼ヲ抜キ定瞼子ヲ去リ軽ク其眼ヲ
蓋フテ臥サシム

又曰此術ハ焮衝ヲ発スルコ至テ牢ナリ若シ然ルコアラハ宜ク
術ヲ盡メニヲ防ク可シ且ツ術后速ニ莨菪越幾斯剤ヲ眉
ニ塗ルヲ要トス之レ瞳孔ヲ開カシメテ毀傷セル水晶囊ノ虹彩ニ
癒着スルヲ防カンカ為メナリ

「イ子ル」人名ガ用フル鍼ハ其尖端一「レイニ」半許ノ間ヲ扁ニシテ其横径
ヲ一「レイニ」之三分二許ナラシメ其頸ヲ細クシテ圓クス其術ヲ施スヤ剛
膜際ヲ距ルコ一「レイニ」許ノ処ヨリ鍼ヲ斜メニ刺シ一側ノ刃ヲ以テ堅
ニ水晶囊ヲ截ルコ数條其一分ヲ截去テ以テ水様液ヲ水晶体
ノ実質ニ暴觸セシメ其融解ヲ催進ス

凡ソ諸症盡ク皆刺角膜術ニ由テ治ス可キニ非サルコハ固ヨリ然
リ且ツ「イ子ル」曾テ一医ノ擠下ハ至テ刺剛膜術ヨリ刺角膜術
ヲ容易ナリトスヲ非トシ刺剛膜術ニ非レハ治ス可カラサル者アル
コヲ證ス節チ其言ニ云ク

刺角膜擠下方ハ刺剛膜術ヨリ危險多ク其翳ノ融解シ難
キモノニ在テハ危險殊ニ多シト

「レイール」名人ノ説ニ由ルニ凡ソ翳羽ノ截破ニ易キモノニ於テハ実ニ刺角膜術ノ如ク簡約ニシテ危険ナリ能相適当セルモノナシト雖固着セル翳及瞳孔ノ閉着スルモノニ於テハ全ク然ラズ唯刺角膜術ノミ能ク相適当スルモノハ軟翳流動翳乳汁様翳傑列乙様翳等ニシテ其他「ルガリ」ニ液ノ翳「スクミウト」名人ノ所謂囊翳瞳孔膜翳ノ如キ假翳先天ノ翳（多クハミナ軟質ナリ）核翳原名カタラクタセントラリスノ種類（其中ニ種ヲ含ム）及後翳ノ類ニシテナリ彼レ又以為ラク患者ノ体質大ニ術ノ功ヲ害スルモノアリ故ニ十歳以下ノ児搐搦ヲ発シ易キ人眼ノ深ク陥没セル人及ヒ眼瞼ノ十分ニ開キ難キ人等ニハ刺角膜術ヲ佳トスト

白内翳治術集論巻之二終

白内翳治術集論三

剔出方上

・刺角膜術

剔出方ハ墮下方ニ比スルニ甚タ新シトスト雖己ニ「アンテイルリユス」名人ノ時ニ此レアリシテ「テヒエス」名人ノ書ニ出タリ 蓋シ此方ハ厄勒祭亜（ギリシア）乃亜剌比亜ニ於テハ「アヒセンナ」名人ノ時己ニ之ヲ施シ其後世人ニシテ其水様液ヲ透出スルヲ恐レテ之ヲ棄廃シ后又「ホルケルコイテル」名人再ヒ此方ヲ興セリ然レ近世ニ至ニテノ傳来甚タ詳ナラズ唯千六百九十四年ニ獨乙都ノ眼科「フレイタグ」名人剔出方ヲ施セルヿ明ナリ其術タルヤ角膜ヲ截開テ晶珠ヲ小鉤ニテ曳出タス「コスレイ」名人ト「オヒウス」名之ヲ学テ「コスレイ」ハ千六百九十五年ニ之ヲ施シ「オヒウス」ハ千七百零二年ニ之ヲ施セリ后再ヒ中絶シ唯千七百零五年ニ「ストユイス」

偶爾（人名）ノ症ニ由テ此方ノ施スヘキヿヲ考ヘ「ヘチト」（人名）其考按ニ依テ其
次年ニ之ヲ施メ以テ其用フ可キヿヲ證セルノミ及ヒ實ニ別出方ニ
メ規矩相定レル一個ノ刀術トセシハ「ダヒール」（人名）ナリ其發明前世（十七百年中ヲ云フ）ノ中頃ニ在リ而ルニ其術ニ用フル製置甚タ多ク繁冗ナリシ
カ故ニ「ラハエイ」（人名）之ヲ改テ簡約ニシ唯二種ノ器具ヲ以テ足レリトセ
リ即チ兩側刃ノ小刀ト「シスチトメ」（器名未詳）之ナリ
其後又諸家之ヲ改テ大ニ其器具ヲ増ス就中「ボエイト」（人名）ハ加之ニ一
種ノ小刀ト「ダテード」ヲ以テシ「テンパーフ」（人名）ハ之ニ加フルニ鈍鈎（眼球ヲ固持スルニ用フ）ヲ以テシ「シカルロ」（人名）ハ加之ニ自家ノ小刀ト定瞼子トヲ以テシ「ベヒンゲル」（人名）ハ自家ノ小復鈎（ヒユツペル パーキー 鈎ト名義蓋シ其形ヲ以テ之ヲ名クルナルヘシ）トヲ加ヘ「バエル」（人名）「ペール」（人名）ヲ加ヘ「リクテル」（人名）ハ「ランセニ」（人名）又「ウエンセル」（人名）ト共ニ其形状一
種ナル小刀ヲ加テ之ヲ「ピストウリー」ト名ク此刀ハ今尚ヲ之ヲ用

ヰ「ラエニセル」（人名）ノ「ピストウリー」ハ「ランセット」状ニメ長ク其長サ十八レイニ其幅尤廣キ處三レイ其尖端ヲ距ルヿ六レイ許ノ處ヨリ端ニ至テ漸尖リ柄ヲ距ルヿ三レイ許ノ處ヨリ其腹少シク凸出シ背ハ直ナ鈍ニメ刃ナシ而メ角形ノ柄ヲ備フ（第一板一圖）「リクテル」（人名）ノ「ピストウリー」ハ其一側刃ナル部斜メニメ尖形ヲナシ他ノ一側ハ其端全長ノ六分一ニメ去ル（ホカ）他ニナ鈍ニメ刃ナク其柄ハ亦角形ニス（第二板三圖）此小刀ハ兩十カテ施術ニ用フルニ拇示中ノ三指ヲ以テ撮ミ餘ノ二指ハ常ニ顋顬ニ置キ其刀背ヲ上ニメ正直ニ角膜上中央ノ微上ニ保チ眼球ノ靜定スルヲ俟テ直チニ其尖ヲ角膜ノ横辺剛膜ヲ距ルヿ半レイ許ノ處ニ刺シ速ニ眼前室ノ全幅横斷シ相對スル處ニ至リ以テ角膜ヲ半月状ニシ兩半面トナス而メ其下半面ハ前ニ張リ老ク垂レテ下瞼

ニ支エテルーガ故ニ其創間自ラノ孔ヲナス
其横断スルニ當テ眼球モ亦共ニ動クヿアル片ハ尚ヲ其動ニ従テ刀
ヲ進ムヿヲ要トス是レ其刀ヲ引退クレハ水様液溢出シテ虹彩刀ニ
近逼スレハナリ若シ然ルヿアリ片ハ速ニ其術ヲ止メ指ヲ以テ眼上ヨリ
摩擦シ虹彩ヲ引収セシムルヲ常則トス若シ又角膜ノ創口小ニシテ水
晶体ヲ出スニ難キ片ハ前刀カ若クハ小刀ヲ以テ截テ之ヲ大ニス
角膜ヲ横断スル片ハ水晶体直ニ前室ニ迸出スルヿ屡之アリ又瞳
孔收縮シテ然ラサルヿモ亦屡之アリ此症ニ於テハ眼瞼ヲ開サシムレハ
瞳孔開テ翳自ラ創間ニ迸出スルヿアリ
瞳孔ノ收縮ニ由ルニ非スシテ翳自ラ動キ難キ者アリ此症ニ於テハ「キス
チトメ」ヲ入レテ水晶嚢ヲ破ルヲ要トス其之ヲ入ルヽヤ鉤背ヲ以テメ
鉤腹（即刃アル処）ヲ水晶嚢ノ上部ニ至ラシム之ニ用ニハ「シカルパ」人名ノ鍼若

クハ「ウエニセル」人名ノ金鍼ヲ佳トス（之ニ由テ此ヲ見レハ「キスチトメ」ハ鍼ノ惣称ナルヘシ）鉤如此ヲ゛ナ
八分ニ水晶嚢ヲ切破ル后水晶体ヲ出タスニハ軽キ壓迫ヲナサズンハアラ
ズ其壓迫スルヤ宜ク前ヨリ后ニ向テ剛膜ノ上部ニ為ス可シ硝子様
液之レカ為メニ後ニ壓サレテ水晶体自テ迸出ス如此壓迫スル片ハ硝
子様液必シモ溢出スルヿナシトス（硝子様液ハ尋常ヨリ甚タ溢出シ易シ）其翳モシ胃様ナ
ル片ハ壓迫ニ由テ動カシ難シ強テ壓迫スル片ハ硝子様液必ス溢出
ス之ヲ出タスニハ小「タング」ナルモノ毛引ノ小ヲ用フルヲ佳トス又之ニ反メ其軟ナ
ルモノ（即水晶体既ニ其嚢中ニ融解スル者ナリ）ニ於テ其嚢ヲ截破ル片綿ノ如キ濁液溢
出セハ温湯ヲ射入メ之ヲ洗ヘシ若シ其嚢ノ状又害ヲナス可キヿヲ
見ハ「タニク」毛引ヲ用フルカ若クハ「タヒール」人名ノ眼匕ヲ以テ盡ク除キ去ル
可シ
「ウエニセル」人名ハ其刀ヲ眼前室ニ入ル片直ニ呉夫鞘ヲ瞳孔内ニ入レテ

水晶嚢ノ前面ヲ截リ破リ次ニ其角膜断餘ノ処ヲ截テ其ノ術ヲ終ル実ニ簡約ニシテ施シ易キカ如シト雖モ甚タ虹彩ヲ毀傷シ易シ虹彩ヲ毀傷スル片ハ劇キ焮衝ヲ眼ノ内部ニ発ス諸家ノ此方ヲ取ラサルモノ多キハ之カ為メナリ

「サニクレリ」ノ名人カ施ス所ノ術ニ種ナリ 其一ハ患者ヲ椅子若クハ几上ニ置テ其頭ヲ己レノ膝ニ枕セシメテ固ク保持シ「ランセツト」状ノ両側刃アル「ビストウリー」ヲ角膜ノ上部ニ刺シ其尖ヲ水晶嚢ノ前面ニ至ラシメ之ヲ截リ破リ次ニ之ヲ抜テ軽キ壓迫ヲ為メ水晶体ヲ逸出セシム此方術ニ由テ誤治スル者三回アリシヨリ更ニ其法ヲ改革ス

先ツ患者ヲ椅子ニ靠ラシメ其椅ノ欄ハ高フシテ其頭ヲ固持スルニ便ス（是レ補者ノ手ヲ以テシテ其保持ノ固カラサルカ為ナリ）而シテ一手ニ定瞼子（其ニ縁ノ幅ヲ廣クス）ヲ取リ其手ヲ額ニ當テ、眼ヲ固定シ他ノ一手ニ三寸五分許ノ「ビストウリー」（刃ハ「リクテル」氏ノ刀ト相類ス）ヲ取テ常法ノ如ク眼前室ニ刺シ入レ其尖ヲ瞳孔ニ入レテ水晶嚢ヲ截リ分テ内眥ノ方ニ倚セテ之ヲ抜キ柄ノ端ヲ以テ軽ク眼ヲ壓シテ水晶体ヲ出サシム若シ出テ難キ丁ナル片ハ刀ノ尖ヲ以其創口ヲ大ニシ小鈎ヲ用テ之ヲ出タス

「ベール」ノ名人ハ後翳ノ再ヒ発スルヲ禦カンカ為ニ水晶体ヲ其嚢ト共ニ除クヿヲナセリ 此レニ用フル所ノモノハ即彼レカ自発明スル所ノ鈎状鍼ナリ（第一板第八圖）之ヲ正直ニ翳中ニ刺シ指ヲ以テ少シク下ニ動カシ半ハ捻テ水晶嚢周圍ノ繋着ヲ離サシメ以テ翳ト共ニ之ヲ引キ出タス

「キプツニ」ノ名人ハ軟翳ニ於テ其患者極老ナルカ為メカ若クハ角膜ノ甚タ平ナルカ為メカ若クハ其眼ノ深ク眼窩内ノ陥凹スルカ為メニ自家ノ剔出方施シ難キ片ハ先ツ尋常ノ椅下鍼ヲ剛膜ヨリ刺

メ水晶嚢ノ前面ヲ截破リ鍼ヲ種々ニ向ケテ水晶体ノ実質ニ刺
シ細カニ之ヲ截砕ヲ以テ水様液中ニ游泳セシメ而后ニ再ヒ「ヒストウ
リー」ヲ以テ角膜ニ孔ヲ穿テ其砕片ヲ外ニ出タス其術左ノ如シ
患者ヲ尋常ノ剔出方ニ於ケルカ如ク居ラシメテ移動スルヿ勿ラシ
メ廣幅ノ「ヒストウリー」ヲ取テ外眥方ヨリ眼前室ニ刺シ前術ニ於
テ水晶嚢ノ分截尚未タ不足ナルヿヲ疑フ片ハ鍼メモ刀尖ヲ瞳孔
ニ入レテヨリ之ヲ截分テ而后ニ其刀ヲ抜キ分砕セル翳ト共ニ水様
液ヲ流出セシメ次ニ小匕ヲ創口ヨリ入レテ其残餘ヲ盡ク除去ス其
除去スルニ當テ小匕背ノ軽ク壓迫スルカ為メニ翳ノ分砕多クハ硝
子液中ニ擠入セラル「アダムス」氏ハ其始メ擠下方ノ為ニ出セル所ノ方
術ヲ用ヒシメ後之ヲ変換ス（但シ「タラヘルス」氏ニ由テ非斥サレタリ）其術殆ント「ギブソン」氏ノ
ノ方術ニ同シ蓋シ彼レガ之ヲ変換セルモノハ従来ノモノハ従来ノ術ニ由

テ剛翳ノ全ク分砕セサル者ヲ眼前室ニ出シ虹彩此カ為ニ壓迫セ
ラレテ劇シキ焮衝ヲ発セルヿアリシガ為メナリ
其変換セル方術ハ殊ニ翳ノ核甚タ剛固ニシテ分截シ難キモノニ之ヲ
施ス其之ヲ施スヤ先ツ眞若ヲ以テ瞳孔ヲ開キ翳ヲシテ此ヨリ眼前
室ニ出少シク而后ニ角膜ヲ穿テ之ヲ外ニ出タス
其前術（翳ヲ眼前室ニ出タス迄テノ術）ニ用フル鍼ハ其長一寸許其幅一寸之十三分
一許其眼瞼ヲ刺貫クニ堅クメ撓マサランカ為メニ其両面ニ肉ヲ附
テ圓形ニ近カラシメ其端全長ノ十四分一許間ハ両側ニ鋭刃ヲ備フ
〔第二板三圖〕此刃ノ處ヲ去ルニ従テ漸次ニ其本ヲ太クシ以テ水様液ノ泄
出ヲ禦クニ便ス
施術ノ前膏眞若ノ稀溶液ヲ眼ニ滴ス是レ翳ヲ眼前室ニ出タス
後早ク瞳孔ノ常形ニ復セシメン為メナリ 若シ眞若ノ溶液功力強

キヽ過クルカ若クハ當日ニ至テ之ヲ用ルトキハ然ルヿヲ得ス
術ヲ施スニハ先ツ患者ヲ椅子ニ靠ラシメ鍼ノ扁面ヲ虹彩ニ向ケ
可ニシメ虹彩後一レイニノ處ニ刺入レ其尖ヲ正横ニ水晶体ノ前面ニ至ラ
シメ而后ニ其刃ヲ後ニ向ケテ水晶体ト其嚢トヲ十分ニ分截ス
其翳モ三四ツニ分截ニ難キトキハ少シク鍼尖ヲ引キ退ケテ水晶体中
央ノ微下ニ至ラシメ鍼ノ扁面ヲ以テ翳ヲ擠壓シ着ヲ離チ以テ其上
縁ヲ前向ケテ瞳孔並前房ニ至ラシメ其マヽ翳ノ後面ヲ前ニ向ハシムルニ従
テ全ク之ヲ眼前房ニ出ス而后ニモシ其嚢其体ト共ニ出スメ残在スル
ヿアラハ鍼尖ヲ以テ其周圍ヲ截破ル而ルトキハ別ニ燉衝等ノ事件ア
リテ新膜ヲ生スルニ非レハ後翳ヲ発スルノ恐ナシトス之ヲ此ヲナセル以後
鍼ヲ抜テ第二ノ術ヲ施ス其法左ノ如シ
患者ヲシテ土ニ仰臥セシメ稍其頭ヲ高フシ司ランセツトニ若クハ翳刀ヲ

以テ角膜ノ縁外眥方ニ孔ヲ穿チ細ク鉤ヒル小刀ヲ以テ其孔ヲ上下ニ
截リ廣ハゲ次ニ小鉤ヲ其孔ヨリ入レ水晶体ノ前面（按ニ此時既ニ前術ニ由テ後房ニ翳入リ）
ニ沿テ瞳孔ノ中央ニ至ラシメ（但シ其之ヲ入ルヽ中鉤ノ扁面ヲ水晶体ニ接スベシ）是ニ於テ其鉤端
ヲ前ニ向ケ翳ニ鉤ケテ之ヲ引出タス
此法ニ由ルトキハ壓迫ヲ用フルノ害ナク且ツ其孔尋常ノ剔出刀ニ於ケル
ヨリ小ニシテ便ナリ且ツモシ其術中ニ水晶体破ルヽトキハ其碎片ヲ
鉤若クハ小匙ヲ用ヒテ除去リモシ又其碎片甚タ微ニシテ然ルニ難ケ
レハ其マヽニシテ水様液ノ融解力ニ任ス（自ラ眼前室ノ下部ニ沈テ融解シ盡ク）殊ニ角膜
偏側ノ創口ハ治愈モ甚タ容易シ
「アタムス」名人ガ此方術ハ即チ「ストユイ」（人名）ガ偶爾ノ症ニ由テ得ル所
ノ考按（前ニ出ツ）ニ本ツク実ニ百年ヲ越テ始テ其功ヲ成就スト云可シ
刺角膜剔出方ノ施後ニ発スル害殊ニ虹彩ノ脱垂（コプルトユグト名ク）見レ尋常ノ刺

角膜術ニ於テ其支持ヲ偽フヨリ発スト）ヲ預メ傷クニ「ワルトコフ」人名ハ尋常ノ正半輪状ニ断
ツシ禁メ少シク上ニ偏メ刺スヲ佳トセリ而シテ上ニ偏スルヿ甚シキ片ハ
創口小ニメ水晶体ヲ出ツルヿ難シ宜ク斟酌アル可シト云フ
「ワルトコフ」人名ガ此ニ用フル所ノ刀ハ即チ「ベリル」人名ノ鎌刀（第一板七図）ニメ其
幅本ニ至ルニ従テ漸ク廣ク其背滑ニメ肉アリ先ツ此刀ニ油ヲ塗リ
「ベリール」人名ノ定瞼子（第一板十二図）ヲ以テ上瞼ヲ固持シ中指ヲ以テ眼球ヲ
適宜ニ内皆ニ挤シヨセ刀尖ヲ角膜ノ中横径ヨリ微シ高ク側縁ヲ
距ル「一リイン」許ノ処ニ刺ス其刺スノ勢ヒ将ニ瞳孔ニ入ラントスル許
ナラシメ其尖ノ虹彩ト近遠ノ将ニ接セントスル片其尖端ヲ起シ傍
其背ヲ虹彩ニ向ハシムルナリ）斜メニ微ク下ニ向ヒ相對スル處ニ至テ角膜ヲ横断ニ断（其
終ル處モ縁ヲ距ル「一リイン」許ナリ）刃ヲ外ニ向ケテ出ス其刀ノ形状漸次ニ廣テ力故ニ
水様液急ニ溢出セルヲ虹彩脱垂セス彼レ自ラ此方ヲ七十人ニ施スニ人

モ角膜ニ瘢痕ヲ残セルモノナシト云
「レイオン」地名ノ「ギユエリン」人名「ポウルテアウクス」地名ノ「ギユアリ」人名（前ノ「ギユエリン」ト兄弟ナリト云フ）和
蘭ノ「ハンウェイ」人名「ノルマンゲー」地名ノ「ユヒント」人名等ガ発明スル所ノ器具ハミナ
十一器ニメ眼ヲ固持スルト角膜ヲ截ルノ二用ヲ兼ヌ即チ前ノ「キュアリ
ン」人名ガ用フル所ノ者ハ其形状「タング」毛引ノ如ク其一般ハ角膜ヲ截ル
ノ刀トナシ一般ハ眼ヲ固持スルノ鉤トナシ弾子（ハジキ）ヲ備テ其作用ヲナス
後ノ「ギユアリン」人名ハ此レニ扁ナル柄ヲ備ヘ其柄中ニ弾子ト「オサイ」和名ヲ設
ケ其部（詳ナラス）ニ金輪ヲ附ク其輪ハ定瞼子ヲ以テスルガ如クニ角膜ヲ圍ム
ニ備フ又其外部ニハ「ヒキガネ」和名アリテ指頭ノ微カニモ刀ノ作用自在ナ
ラシム（尚其用ノ詳ナルヿハ「ギユアリン」ガ千八百四十六年ノ著書ニ出ヅ）
「ジュヒント」人名ノ器具ハ殆ント「ギユエリン」人名ノ器具ニ類似ス但其異ナル所
ハ角膜ヲ堅ニ截ルノミス「ハンウェイ」人名ノ器具ハ刺絡ニ用フル「ステツヘル」

許ニ彷彿タルモノニシテ角膜ノ下部ヲ截ル

「サハキール」氏ノ言ニ曰ク刺角膜術ノ刀ハ宜ク「ウェンセニ」氏ノ器ヲ用フ可シ精微ノ伎倆臨機應変アリ敢テ其切ル器械ニ託ス可キニ非ス「ウェンセル」氏ノ言ニ曰ク眼ハ薄弱ノ器ナリ弾子ヲ用フルガ如キ器具ハ危害甚タ多シ妨キニシテ且ツ明智ナルニアラスンハ敢テ施用ス可キ所ニ非ス

「剔出方」

刺剛膜術

刺角膜剔出方ニ於テモ亦屢々誤治ノアル為メニ「ヘル」氏ハ始テ刺剛膜剔出方ヲ施ス可キヿヲ工夫ス即チ其按ハ角膜ヲ距ルヿ一分許ノ処ヨリ「コストウリー」刀名前ニ出ツ刀ヲ虹彩後ニ刺シ次ニ小鈎ヲ入レテ水晶体ニ鈎ケ出ス可キ出タスナリ（第二図二版）以為ラク此術ニ由テハ虹彩ヲ毀傷スルヿナク角膜ニ瘢痕ヲ残スノ患ナシト彼レ自ラ獣類ニ之ヲ施シ試ムルニ必ス其功ノアル可キヲ見ル

「ミユテル」氏モ亦千八百十一年ニ同種ノ按ヲ発ス以為ラク剛膜ノ角膜ヲ距ルヿ一レイン余ノ處ニ擠下方鍼ヲ以テ孔ヲ穿チ其孔ヨリ小鈎（第二図二版）ヲ水晶嚢ノ後ニ入レ其鈎端ヲ水晶嚢中央ノ部ニ留テ之ヲ少シク前ニ動カシテ翳ノ剛靭ヲサグリ　其翳剛質ナルトキハ鈎端ヲ如

レニ鉤ケテ創口ニテ曳出メ且其ヿニ眼ヲ鼻方ニ向ハシメ鑷刀ヲ以テ
其創口ヲ截開キ（其截開クヤ宜ク前頭骨ノ外角ニ向テ且直ニトス又眼瞼ノ襞間ニ入ラザランヿヲ要ス）其創口鑷
ヨリ出スニ十分ノ大ヲ得ルトキ鉤ト共ニ之ヲ曳出シ創唇ハヨク合閉セシ
メテ瞼ヲ閉ツ可クモシ創ヲ繃帯シ継発セバ「アルドロプ」氏ノ法ニ従テ角
膜ニ鍼ヲ以テ孔ヲ穿チ水様液ヲ泄ス可シト（此法「アルドロプ」カ千八百十三年ノ著書ニ出ツ）
「イー十」名ノ地ノ大学士「アルホベンスタイン」「ルオベル」名人モ亦同様ノ発明ヲナ
ス其后既ニ他人ノ此考（按アリシヤ）ヲ知ラ行リトナリ而ノ其術ノ当
ニ施ス可キヿヲ発見セルヿハ一個ノ病症ヨリスト云
一小児齢五歳「ヘンニチメス」ト呼ル人鷲ノ嘴ヲ其手ニ持ツ其友之ヲ奪ハ
ントスルヲ拒マントノ誤テ其尖ヲ以テ自ラ眼ヲ毀傷スルヿ有ニ（ヘ
スライン」「ハルオベル」名人往テ之ヲ見ニ鞏膜ノ下部角膜ヲ距ルヿ一二
レイニノ処ニ創アリテ其創口一寸ノ六分一許ナリ水様液溢泄メ角

膜皺縮シ水晶体ハ迸出メ自ラ眼ヲ掩ヒシ所ノ布片ノ内ニ包マレ
水晶嚢ノ残余ハ其創唇ノ間ニ介サマレリ法ノ如ク之ニ縛帯ヲ施ス
ニ恰モ翳ノ術ヲ施セルモノヽ如ク十六日ニメ全ク復治ス
此ニ由テ鞏膜脈絡膜毛様靭帯硝子液等ノ毀傷ハ世人ノ曰フカ
如キ危症ヲ発スル者ニ非ス却テヨク法ノ如ク治ヲ施ス可キヿヲ知リ
由テ彼レ以為ラク水晶体モシ甚タ大ナルカ剛固ナルニ由テ瞳下分截
共ニ施シ難キモノ或ハ水晶嚢愈着スルモノニ於テハ鞏膜ヲ刺メ剔出
方ヲ施ス可シト而メ其法ヲ立ルヿ左ノ如シ
刀ヲ入ルヤ宜ク尋常ノ瞳下方ニ於ケンヨリ深クメ水晶体ノ前面ニ
至ラシム可シ但シ其刀ヲ進ムルニ当テ少モ前後ニ偏倚スルヿナク唯
上下ニ動カスヲ佳トス此ニ由テ虹彩毀傷スルヿナリ水晶嚢自ラ
破ル而メ后ニ軽ク上瞼ヲ圧ス可シ水晶体其嚢ト共ニ自ラ外ニ出ツ

モシ又其嚢甚タ至薄ニシテ剔出シ難キ片ハ唯之ヲ吸收管ノ力ニ任
セテ可ナリ
彼ノ自テ云ヘル然ク法ヲ定ムト雖モ此術ハ唯白内翳ノ初発ニ於ケル者
就中剌角膜術ノ施シ難キ片及其瞳孔固着若クハ大ニ過キテ分蔵ス
ルナモ擠下スルヿモナシ難キノミニ用フヘシ
世醫尚ヲ此術ノ可否ヲ云テ議論紛々ナルニ「ヲアヒレ」氏ハ既已ニ千八
百二十一年ニ之ヲ發明シ屢之ヲ患者ニ施シテ其功ヲ試ミ大ニ其法則
ヲ定メタリ
其用フル所ノ刀ハ鉤ナル「ランセット」ニシテ其尖ハ適宜角形ヲナシ
其幅ハ四「リイン」許アリ而シテ之レ一種ノ小ナル「タンバ」(毛引)ノ類ニ附接シ其柄
中ニハ彈子ヲ備ヘテ「ランセット」ハ進退自在ナラシム此ヲ以テ剛膜ヲ剌
メ深ク虹彩後ニ入ラシメ次ニ彈子ヲ由テ其「ランセット」ヲ抜ケハ「タニク」畢

リ眼内ニ止ル是ニ於テ尚之ヲ迫メテ其側面ノ瞳孔ニ見ル片ハ必シク
退ケテ其股ヲ開キ意ヲ用テ水晶体ヲ挾ミ適宜其繋着ヲ離サシ
メ以テ創口ヨリ之ヲ曳出ス翳モシ適宜ニ固カラスメ挾ム片破砕スル
ヿアル片ハ再ヒ他ノ「ランセット」ヲ附接セサル「タング」ヲ入レテ其砕片ヲ
一々ニ曳出ス若シ結膜腫脹メ創口ヲ壓閉スルヿアレハ「ワンデ」君鍼
(不詳)名ヲ眼ニ插テ以テ再ヒ「タング」ヲ入レ易カラシム
「クワトリ」氏ハ千八百十五年ニ始テ「ヘルニ」氏ノ考按ヲ継テ之ヲ術ニ施セ
リ其法左ノ如シ
其翳ヲ挾ムニ用フル所ノ「タニク」ノ製他ニ異ニシテ柄ノ合スル片股ヲ開ク
可ラシム其創口ヲ造ルヤ「ウエンセル」氏ノ小刀ヲ取テ剛膜ノ角膜ヲ距
ルヿ二「リイン」許ノ處ヨリ虹彩後ニ刺入レ而メ后ニ其「タニグ」ヲ創口ヨ
リ入ル其入ルヽヤ一股ハ水晶体ノ后硝子様液ノ前部ニ届ラシメ一股

ハ水晶嚢ノ前面毛様体ノ后ニ至ラシメテ瞳孔ニ見ハルヽ可クナサシメ以テ水晶体ヲ挾テ之ヲ外ニ出ダス

彼ヒ此術ニ由テ功ヲ得ルモノ是ヒタヽ多シト雖自ラ其施シ難キモノ多シト云フ就中其翳ノ愈着セルモノ及水晶体ノ破砕スル時ニ然リトス

施術誤治之因

施術ノ誤治ハタヽク合併病ニ因リ或ハ其部ノ常ニ異ナル所アルニ因ルヿ実験ニ由テ明ナル所ナリト雖ヨク其症ニ随テ其術ヲ処スル時ハ亦之ヲ免ルヽヿヲ得可シ今誤治ノ因トナルモノ二ヲ挙テ以テ之ヲ読ルヽノ一助トセントス

・擠下方誤治之因

若シ其嚢ヲ截破スルヿナク水晶体ヲ硝子様液内ニ擠下スル時ハ甚タ融解シ難ク或ハ全ク融解セサル者アリ此融解セサル翳モシ網膜ノ裏面ニ近邇シテ在ル時ハ多ク必ス難症ヲ発シ或ハ視神経ノ麻痺ヲ起スヿアリ而シテ之ヲ截テ眼前室ニ出スモノニ在テモ如此キ危害アルヿナク速ニ吸収シ尽ク

既ニ擠下セル水晶体再ヒ上テ或ハ一分瞳孔内ニ見ハレ或ハ全ク本位ニ復スルヿアリ之レ硝子様液自然ニ有スル所ノ弾力ニ由ルカ若クハ他ノ因アリテ然ラシムルカ未タ決然タル裁判ナシ而シテ硝子様液ハ至軟ノ流動質ナレハ全ク其内ニ擠下セルモノヲ再ヒ弾ニ復ヘスノ理ナシ必之レ眼后室ノ底ニ懸リ止テ然ルモノナル可シ此症ニ在テハ其翳ヲ動揺スルカ為メニ劇キ焮衝ヲ発シ瞳孔此レカ為メニ縮閉メ生涯治セサルモアリ若シ其水晶体ノ剛軟ヲ分截スルヿヲ得可キモノニ於テ其害ヲ除クヿヲ得可シ

剔出方誤治之因

剔出方ノ誤治ノ因トナル者ハ硝子様液溢泄ト虹彩脱垂ト其眼ノ小ニメ深ク陥凹スルト眼前室ノ内ノ小ナルト角膜創口ノ愈ヘ着シ難キト是ナリ

硝子様液溢泄ハ或ハ眼球穴筋ノ痙攣ヨリ起リ或ハ水晶体ヲ出サンガ為メニ用フル所ノ壓迫ヨリ起ル其壓迫ハ創口ノ甚タ小ナル片其刀ノ度ニ過ルヨリ害ヲナスヿアリト雖多クハ創口ノ大ニ過クルモノ此液ノ溢泄ヲナサシメ易シ且ツ稟質其液ノ流利シ易キモノニ於テハ殊ニ然リ故ニ此症ニ於テハ角膜ノ創口ヲ上邊ニ造ルヲ佳トセル人アリ

虹彩脱垂モ亦屢水晶体ヲ出スニ用フル壓迫ノ輕症ニメ其角膜ノ創唇ニ壓擠セラルヽニヨリ焮衝ヲ発シ加之ニ壊疽トナルヿアリ假令然ラサルモ其焮衝日ヲ経ルトキハ継テ視瞻ヲ失ハシムルニ至ル施術ニ先テ莨菪及非沃失亜斯ヲ用フル片ハ此誤治因ヲ免ルヽヿヲ得可シ按ニ瞳孔濶開スヘシハ水晶体ノ出ツ壓迫スル患ナシ

眼ノ小ニメ深ク陥凹スルモノ及眼窩縁ノ甚タ突起スルモノハ剔出方ヲメ屢其治ヲ誤ラシム是角膜ノ適宜ニ截開キ難キカ為メニ水晶体ヲ出スノ壓迫適宜ナラス是ヨリメ重難ノ諸症ヲ継発スルヿアルニ由ル此症ニ於テハ他ノ擁下方ヲ施スヲ佳トス

眼前室甚タ小ニメ角膜ノ虹彩ニ近接スルモノ及ヒ角膜平ニメ凸起セサルモノニ於テハ截開クニ十分ノ大ヲ得難ク且ツ虹彩ヲ毀傷スルノ害ヲ免レス

瞳孔甚タ小ニメ麻痺剤ノ功ヲ奏シ難キモノニ剔出方ヲ施ス片ハ水晶体ヲ出スノ壓迫ニ因テ虹彩ヲ破リ若クハ虹彩周圍ノ繋着ヲ傷フ若シ然ラスメ虹彩脱延シ水晶体之レカ為メニ出ツ片アルニ術后必ス瞳孔ノ異形ヲ残シ或ハ網膜ノ麻痺ヲ継発スルヿアリ

角膜ノ創口ハ必シモミナ速ニ愈着スルモノニ非モ亦其創口久シク開テ
水様液ノ溢泄無当スル片ハ或ハ虹彩ノ脱垂ヲ起シ或ハ其創唇
壊疽トナル或ハ又速ニ愈着スト云ヘトモ過多ノ[illegible]ナル片ハ即纖維ヲ生ナスノ質創間ニ溢ル、
片ハ瘢痕ヲ残シ視瞻ノ害ヲナス

施術間及其後之傍症

施術ノ間若クハ其後ニ於テ発スル所ノ傍症ハ摘下方ニ於テモ剔出
方ニ於テモ種々アリ○其摘下方ニ於テ必ス此アル所ノモノハ出血ナリ是
眼膜中ノ血絡毀傷スルヨリ発スル所ニシテ其血モ亦剛膜ト結膜ノ間ニ溢
ルヽ片ハ青斑ヲ発ス此斑ハ二三日ヲ経テ自ラ消散スルモノナリ其出血
虹彩ノ毀傷ヨリ発スルモノニシテ殊ニ過多ナル片鍼孔俄ニ閉塞スレハ
更ニ角膜ヲ穿シテ之ヲ排泄ス可シ然レモ此出血施術ノ間ニ在テ且
ツ甚シキ妨碍アルニアラスンハ其マヽニ置クヲ佳トス

鍼ノ入ルヿ深キニ過ル片ハ悪症ヲ発シ易シ且ツ其鍼網膜ニ徹スル片ハ
真ノ黒内翳ヲ発スルヿアリ毛様靭帯ノ変位アルヿアリ（位置ヲ変スルノ義）及水晶
体摘下ノ深キニ偏ルアルモ亦之ヲ発シ易シ
剔出方ニ於テハ瞳孔水晶体ノ排開シ出ツルニ由テ毀傷損破セラレ或ハ
術ノ巧拙ニ由テズメ著シク散大スルヿアリ此症復治セサル片ハ視
瞻ニ妨害ヲナスヿ少カラス○術後ニ残ル所ノ視力ノ乏弱ハ水晶体ノ
除去スル後硝子様液其位置ニ凸起セズ此カ為メニ光線適宜ニ聚合
セサルノ致ス所ナリ即チ是レ硝子液ノ凹面ヨリ光線ヲ離開セシムルニ
由ル
虹彩ノ脱垂硝子様液ノ溢出ニ由ルニ非ス唯水様液ノ溢泄ニ亦発シ
其因既ニ此膜ノ弛緩ニ在ル者（瞳孔ノ楕形ヲ為スヲ以テ此徴トス）ハ難治トス而レモ硝
子様液溢出ノ勢ヒヨリ発スルモノハ眼瞼ヲ軟ラカニ摩擦シ若クハ

「デサイス ゲンドロン」名ノ人ノ説ノ如ク強キ光輝ニ觸レシムレハ自ラ収縮シ入ル者ナリ（但シ此方ハ燃術ヲ並ル者ニハ施シ難シ）

掎下剔出両方共ニ最モ多ク兼発スル所ノ傍症ハ燃術ナリ是レ多クハミナ器具ノ刺戟ヨリ発スル所ニシテ或ハ其器具ヲ眼内ニ止ムルコノ久シキニ由リ或ハ虹彩ノ縁ヲ壓迫スルニ由テ而シテ虹彩ノ燃術ハ屢ヨク眼内ノ諸器ヲ消滅セシメ全ク視瞻ノ用ヲ失セシムルニ至ルコトアリ或ハ亦器具ニ由ルニアラスシテ他ノ病因ノ此ヲ致サシムルモノアリ後翳モ亦両方術共ニ此レアル所ノ傍症ナリト雖モ其発スル所ノ症状種々有テ一ナラサルカ故ニ今之ヲ別ニ掲テ詳ニ之ヲ示サントス

後翳

後翳ハ実ニ医家ノ功ヲ失ヒ患者ノ望ヲ虚フセシムルモノナリト雖モ全ク不治ノ症ニ非ス

此症ハ即施術後数日ヲ経テ更ニ復ヒ発スル所ノモノニシテ多ク視瞻ヲ失ヘシム此レニ水晶体ヨリ発スルト水晶嚢ヨリ発スルト近傍ノ部分ヨリ発スルノ別ナリ而シテ多クハ内因ノ在ル有ルヨリスル者ナリ其水晶体ヨリ発スルモノハ或ハ剛固ナル水晶体翳ニ於テ之ヲ破砕スルトキ其一分残在セル水晶嚢中ニ止マル者ナルアリ此症ニ於テハ瞳孔後ノ水様液中ニ浮泳スルカ如クニ見ハル或ハ既ニ掎下セル翳数時ヲ経ル後再ヒ其縁ヲ眼後室ニ見ハス者ナルアリ水晶嚢ノ後翳ハ術ヲ施スノトキ水晶嚢ノ一分残在シ燃術ヲ発シテ蒲桃膜ト癒着スルヨリ発スル翳ハ白ク銀色ノ線條若クハ斑点ヲ見ハス水晶体ヲ圍ム所ノ近傍ノ部分若クハ水晶嚢ニ発スル所ノ後翳ハ燃術ニ由テ滲出スル「レイシム」。（繊維ヲナス質）ノ凝固スルヨリ生スルモノニシテ白色ナル綢形ヲ縮小セル瞳孔内ニ見ハス或ハ又水晶体及其嚢ヲ全ク除去スル後

尚ヲ曇翳ヲ残スコトアリ然ルトキハ是レ其病硝子様液ノ膜ニ在ルカ若クハ硝子様液ノ前ニ凸起スルコト甚フシ瞳孔内ニ進ニ由テ以テ視聴ヲ妨害スルナリ或ハ又タ血色ノ後翳膿様ノ後翳ナル者ヲ見ルコトアリ後翳モシ必シモ内部ノ因アルニアラサルトキハ掎下方ニ由リ若クハ剔出方ニ由テ之ヲ治ス可シ而レトモ術ヲ施スハ早キニ過キザルコトヲ要ス屡々ヨク吸収力ニ由テ自ラ除去スルコトアレハナリ

術後之療法

術後ノ療法ハ諸術共ニ大ニ異ナル所ナシト雖モ亦各個ニ論セサル可ラサルモノアリ

掎下方ニ於テ鍼ヲ抜クトキハ宜ク直ニ其瞼ヲ閉サシムヘシ又此レニ乾繃帯（薬汁ノ類ヲ以テ湿サヽル者ヲ云フ）ヲ以テ施スノ方アリ其方先ツ患者ヲ暗室ニ入レテ衾蓐ニ靠カシメ帯ヲ固ク患者ノ[illegible]帽子ノ各ニ附ケテ之ヲ綃縛ス（但シ少モ眼ヲ壓迫セサラシム）コトヲ要ス而メ諸ノ舉動ヲ禁ス可シ舉動スレハ翳ノ再ヒ上ル患アレハナリ若シ眼中ニ甚シキ焮衝ヲ覚フルコトアレハ撒糸ニ鷄子白ト明礬ト薔薇水ノ和剤ヲ浸シ之ヲ掩フ可シ（[日ヲ過ル此ノ方ナリ]）繃帯ハ宜ク日々ニ二三回更換スルヲ佳トス然ラサレハ眼瞼ノ閉着スルコトアリ但シ其時眼ヲ光輝ニ觸レシム可ラス光輝ニ觸ルヽコトハ三四日ヲ経ルニ非サレハ許スコト勿レ

剔出方ヲ施ス後ニ於テハ速ニ其創口ヲ合着セシムルヲ以テ第一ノ務トス宜ク其創唇ヲ相合セシメ下瞼ヲ以テ之ヲ固定セシムヘシ若シ此レヲ怠ルトキハ膿ヲ釀メ異形瘢痕ヲ残シ視聴ニ大害ヲナスニ至ル若シ其創口十分ニ合着セスメ残ル所アレハ水様液ノ溢泄絶キ難クメ甚タ治愈シ難シ是故ニ術後第三日若クハ四日ニ暗処ニ於テ其眼ヲ檢ス可シ但シ其瞼ヲ開クハ宜ク緩徐ナル可シ然ラザレハ創口ノ合着異形ヲナシテ虹彩ノ一部其間ニ挟マルコトアリ

若シ虹彩ノ一部其創間ニ出テ、諸術之ヲ入ラシムルヿヲ得サルトキハ其創外ニ出ツル部分ヲ除去スルカ若クハ収斂メ緩ニ腐蝕スル剤ヲ用テ之ヲ入ラシム可シ但シ焮衝ノ症全ク消散スル者ニ非サレハ之ヲ施ス可ラス

焮衝ハ諸術後常ニ有ル所ノモノナリ之ヲ治スルニハ緩和ノ剤ヲ外用シ兼テ防焮衝剤ヲ内服セシム可シ又刺絡蜞蛭法（術ヲ施セル眼ノ近傍ニ施ス）及飲食ヲ節スルハ爰ニ最偉功アリ虹彩ノ焮衝ニ於テモ療法相同シト雖若シ其虹彩近傍ノ部ニ愈着セントスルカ瞳孔縮小セントスル時ハ莨菪若クハ非沃失亜謨斯ヲ用フ可シヨク瞳孔ヲ開カシメ已ニ微愈着セル部モ此レカ為ニ分離ス

翳鏡（ソコヒノカヾミ）

既ニ除去セル水晶体ノ用ヲ補フテ視瞻ヲ扶ケンカ為メニハ翳鏡（原名スタールブリルレンズ）ナル者アリ是レ光線ノ眼ニ入ルニ先タチテ先ツ之ヲ屈折セシムルノ器ニメ其製ハ世人ノヨク知ル所ナルカ故ニ敢テ爰ニ贅セス但シ此鏡ハ視聴ノ漸ク復スル間ニ於テ謾用スルヿ勿レ其視聴ノ復スルヤ始メハ甚タ速ニ進ミ後漸ク遅ク終ニ止ミテ全ク進マサルニ至ル其止マル時ヲ候テ始テ之ヲ用フルヲ要トス其當サニ用可キヿヲ見ハ宜ク其視聴ノ強弱ニ應シメ硝子凸面ノ度ヲ斟酌シ以テ之ヲ製ス可シ

諸術比較

正論ニ原ヒテ諸方術ノ害ヲ挙クル時ハ其利自ラ見ル可ク且ツ何症ニ於テハ此方ヲ施シ何症ニテハ彼術ヲ施ス可キナルヤヲ比較シ定ムルヿヲ得可シ

或人曰方術ハ角膜ヨリ施スニ非レハ危害甚タ多ク且ツ鍼ニ由テ剛膜脉絡膜及虹彩裏面ヲ毀傷スレハ内部ニ焮衝ヲ発メ大ノ害ヲ起

シ又内部ノ血絡ヲ傷テ出血スレハ術ヲシテ終ヘサラシメ又横ニ鍼ヲ入ルヽ
ハ其道長ケレハ硝子様液ヲ損傷スル所多シ又曰搦下方ハ膜翳ニ於テ
水晶嚢ノ後部ヲ除キ難カ故ニ後翳ヲ発シ易ク軟質ノ翳ニ於テハ搦下
スルノ難カ故ニ鍼ノ眼内ニ止マルヿ長ク此レカ為メニ危害ヲ招キ易シ
又曰搦下方ハ誤治多シ一名ニ誤治スルヿアレハ復之ヲ施サスト欲ト雖患者
死シテ許シ肯セサル者ナリ刺角膜ニ於ケルノ害ハ其数実ニ少ナシト雖
亦全ク危害ナキニハアラス或人曰骨様翳ニ於テ搦下スルハ剛膜ヨリスル
者ニ比スルニ危害甚タ多シ是其鍼ノ虹彩ヲ壓迫スルヨリシテ焮衝ヲ発シ
易ケレハナリ」又曰真ノ黒内翳ハ多ク剌角膜搦下方ニ於テ水晶体ヲ
網膜ニ壓迫セシムルヨリ発スモノ其翳ヲ鼻方ニ搦下スル片ハ殊ニ然リト
ス故ニ「ヨシカルパル」名人ノ言ニ云ク翳ヲ硝子様液中ニ搦下スルニハ宜ク網膜ニ
觸レサル可ク深ク之ヲ搦ス可シト

剌角膜ノ剔出方ハ其危症ヲ併発スルノ最多キヿ前ノ二術ニ比スルニ同ク
ノ論ナラス假令ヒ妙手ニ由テ其治全キヲ得ル者ト雖其創痕全ク消滅
スルモノニアラス今其方術ノ害ヲ討フルニ水様液ノ漏泄スル片虹彩之カ為
メニ前ニ向テ刀ノ刃ニ觸レ易ク此ヨリシテ発スルノ害甚タ少ナカラス又患者ノ
動揺スルヿアルカ若クハ水晶体ヲ出スニ用フル壓迫ニ由テ硝子液甚タ漏
泄シ易ク其漏泄スル片壓迫甚タ焮衝ヲ起シ易ク其焮衝眼内ノ諸器ニ
施及シ終ニ膿潰スルニ至ルヿ屡アル所也故ニ「オヒアンテル」名人ノ言ニ曰此方術
ハ「ヘル」名人ノ妙手ニ於テスラ尚ヲ未タ全ク危害ヲ免ルヽヿヲ得スト角膜
ノ壊瘍モ亦タ剔出方ノ害ニシテ「マウクール」名人カ経験書ニモ亦之レ無キ
カ如キ症ニ於テ二ヲ実験セルヿヲ云ヘリ彼レ以為ラク是レ角膜ノ実
質ヲ栄養スル細絡ヲ毀傷スルヨリ発スル者ナリト是故ニ彼レハ剔出方
ニ於テモ穿瞳術ニ於テモ力所及其創口ヲ小ニスルヿヲ佳トセリ

「ミヤブマニ」〔名〕人等ノ言ニ云フ刺剛膜剔出方ハ危害最モ多シ宜ク施ス可キノ
術ニ非ラスト夫レ刺角膜剔出方家ノ説ニ拠ル剛膜ヲ刺スル擠下方ニ
於テスラ尚ヲ脉絡膜及ヒ毛様挺ノ毀傷危害ヲ續発スルヿ多シ況ンヤ其
毀傷ヲ大ニスルモノヲヤ且ツ此方ニ於テハ眼ノ内部ニ出血スルヿ多ク硝子液
ノ溢出亦タ禦ク可カラス

右件ノ論説ニ由ルヤヨリ諸方術ノ害ヲ知ルヿヲ得ヘシト雖モ亦其理ヲ挙
ケ示サスンハ何レノ症ニ於テ何レノ方ヲ處ス可キヿヲ知リ難カラン

横鍼擠下方〔原名「セイテレイキ、子ーデルトキユツキング」横ノ擠下方ト云フ義ナリ〕ハ骨様翳ト揺翳ヲ除ク
ノ他ミナ之ヲ施ス可キナリ 此方ノ利ハ其水晶体ヨリ硝子様液中ニ於テ
融解スルト其術之ヲ剔出方ニ比スルニ甚タ施シ易キトニ在トス

直鍼擠下方〔原名「オールステキ子ーデルトキユツキング」前ノ擠下方ト云フ義ナリ〕ノ利多キヿハ論ヲ俟タスシテ明
ナリ何トナレハ此方ハ猶ヲ未熟ノ手ヲ以テモ施ス可ク毛様靭帯及ヒ其挺ノ
毀傷スル恐レ少ク且ツ焮衝疼痛ヲ微少ナラシムナリ 此方ニ由ルヤ水晶体ノ
適宜ニ穴蔵破砕メ之ヲ眼前室ニ出シ或ハ唯其囊ノミヲ破テ其他ヲ吸収管
ノ力ニ任スルモ亦タ纏リ自ラ消散スル豈ニ容易ナラストセンヤ

此方術ノ利益甚タ多キヿハ日ヲ追テ漸ク益明ナリ 宜ク「ウエーテ」「ウルレイ
ン」「テンヅヒユト」「及ハルヒ」〔名〕諸地ニ於テ出板セル眼科書ヲ見ヨ 千八百十四年ヨ
リ十六年ニ至ル迄ノ日内翳ヲ療スル者三百六十四人ニシテ其二百三十人ハ三十唯此
方術ニ由テノミ全治ヲ得タリ

直鍼剔出方ノ利ハ前術ノ如ク知覚ナキ角膜ヲ刺スト後翳ノ発セサルト
ニ在リ又其眼劇シキ焮衝ニ罹リ易キト其眼ノ動揺シ易キト其眼球及
近傍ノ部ノ形状此方術ニ妨ケアルトニアラサレハ他ノ方術ノ施シ難キモノ
ニ於テ之ヲ施ス可キナリ

又此方術ニ於テ硝子様液ノ少シク溢出スルハ其功ニ大害ナシ且ツ甚キ患者

曾テ併視眼原名「ヘイヒイーシテ」二ツニ見ル病物ヲ病ムモノハ此方術ニ由テ其視瞻故ニ過クルヿヲ得ル者屢此アリ是レ硝子様液凸出シテ水晶体ノ位置ニ入リ眼後室内ヲ充ツルヿ已前ニ過ルニ由ルモノトス又剔出方ニ於テハ眼後室ノ空間ヲ廣フスルヿ橋下シ若クハ分截スルモノヨリ多キガ故ニ患者ニ近視眼ヲ病ムモノハ剔出方ヲ佳トシ遠視眼ヲ病ムモノハ橋下方若クハ分截方ヲ佳トス

翳ノ大ナル若及骨様ナルモノニ於テハ其瞳孔ヲ出ツル時虹彩ヲ破裂セシメ或ハ麻痺セシムルヿアルカ為メニ横鍼剔出方ノ按ヲ発スル人有テ以為ラク此方ニ由ル時ハ水晶体ノ出ツルヿ容易ニシテ如此ノ害ヲ免ル可シト雖モ其試験ヲ重スルヿノ未タ少ナキカ故ニ確乎ノ明ニ其利ヲ曰フヿヲ得ス

諸方術可否之決定

前件ノ諸論ニ由テ之ヲ按スルニ方術ハ各ヽ其習慣シ得ル所ニ從テ処スルヲ佳トス凡ソ人ニシテ其自得スル所ノ方術ヲ貴テ其他ヲ非毀スルヿ是レ其常ナリト雖方術各ヽ利ト害トアリ宜ク一術ニ拘泥シテ其他ヲ全ク棄廃スルヿ勿ク若シ諸症ニ應シテ盡ク之ヲ治スルノ大醫タランヿヲ欲セハ諸方術ヲ盡クシテ明カニ之ヲ知ラズンハアラス何トナレハ或ハ他病ノ合併スルニ由リ或ハ翳質ノ剛軟及ヒ大小ニ由リ或ハ其近傍ノ部分ノ害ヲナスニ由テ彼此ノ方術施シ難キモノアレハナリ今彼此ノ方術ニ拘泥偏倚スルヿナク其習慣ニ迷フヿナク同症ニ種々ノ方術ヲ施シテ之ヲ試ムルニ刺角膜術ニ由テ水晶体ヲ分截シ若クハ唯其嚢ヲ破テ近傍ノ部ヲ損スルヿナク水晶体ノ位置ヲ変スルヿナク水様液ノ吸収力按ニ恐ラク融解謬ノ二任カスモノハ其功ノ甚タ他術ニ勝ルヲ覚フ就中其嚢ヲ破テ融解セシムルモノハ少シモ傍症ヲ発スルヿナクシテ利益最モ多シ故ニ予ハ常

ニ多ク此方ヲ用フ

白内翳治術集論三 終

附録 穿瞳術集論

総論

盲眼ノ因其種甚タ多ク多ク方術ノ以テ之ヲ治ス可ラサルモノ亦甚タ少カラズト雖而シテ瞳孔ノ縮閉ヨリ発スル者ハ尚ヲ幸ニ治ス可キノ方術有テ視聴ヲ復治スルコトヲ得可シ其病名或ハ焮衝ヨリ発シ或ハ他ノ病因アルヨリ発シテ終ニ全ク光線ノ射入ヲ妨ケ患者ヲシテ視聴ヲ失ハシムルニ至ル此時ニ至テ天受ノ瞳孔既ニ失セリト雖尚ヲ人造ノ瞳孔ヲ以テ之ヲ補フ可シ而シテ其更ニ瞳孔ヲ造クルノ部位及方術共ニ家ニ各々相差アリテ未タ一定ノ法則アルコトナシ故ニ予今マ白内翳ノ方術ニ於ケルカ如ク古今ノ諸方術ヲ集論シテ爰ニ附録セントス

「ベール」名人ノ説ニ曰鍼ヲ眼内ニ刺メ白内翳ヲ治スルノ術ハ「ガーレニュス」名人ノ時未タ其病ノ所在ヲ詳ニセストモ既已ニ之アリシニ瞳孔ヲ穿テ既ニ失ヘル所ノ視瞻ヲ復治スル術ニ至テハ怜リ前世未タ曽テ此レアラサランコト実ニ異ムニ堪タリ是レ全ク解剖学ノ未タ足ラサルノ致セルナルカ将タ眼ヲ毀傷スルヲ恐レテヨリ然ルカ之ヲ詳カニスルコトヲ欲セズトモ実ニ此方術ノ施スヘキコトヲ始テ発見セルハ「セセルデン」名人ナルコト明カナリト

蓋シ此方術ハ必シモ唯白内翳施術後ニ発スル所ノ瞳孔縮閉ニ於ケルノミナラズ其他種々ノ症ニ於テ之ヲ施スヘシ假令ハ角膜ノ殆ント全ク曇翳セルモノ瞳孔ヲ蔽フ所ノ大斑自然ニ及メ生スル假膜ノ瞳孔ヲ狭ハメ若クハ全ク之ヲ閉ツルモノ及ヒ翳ニ別出方若クハ擠下方ヲ施ス後水晶嚢ノ虹彩ニ愈着スル者等ニ於ケルカ如シ

又此方術ヲ施メ功ナキ所ノモノハ角膜ノ全ク白雲翳セルモノ虹彩ト角膜ト全ク愈着セルモノ硝子様液及其膜ニ疾病アルモノ毛状靱帯ニ疾病アルモノ真ノ黒内翳ヲ兼ルモノ眼水瞳ヲ兼ルモノ眼球ノ萎縮セルモノ及其視瞻ナヲ妨ケ少クメ未タ邪視ニ至ラサル者等ナリ

瞳孔ヲ穿ツノ術ニ四種ノ方アリ其一ヲ穿入方「羅甸名「コロトミア」」ト云ヒ其二ヲ穿出方「羅甸名「コレクトミア」」ト云ヒ其三ヲ截離方「羅甸名「コロヒアレイシス」」ト云ヒ其四ヲ離除方「羅甸名「コレヒトシアレイシス」」ト云フ

第一術　穿入方

此方ハ唯虹彩ニ截入ルノミニメ其膜ノ実質ヲ穿チ取ルコトナキ術ニメ即チ「セセルデン」名人カ始テ発明スル所ナリ而レモ彼レカ此方術ヲ施スハ唯白内翳施術後ニ発スル所ノ瞳孔縮閉ニ於ケルノミ其之ヲ施スニ用フル所ノ刀ハ長ク細クメ且ツ薄シ之ヲ尋常ノ擠下方ニ於ケルト

同シ處（即チ角膜ヲ距ル「一レイン」許ノ處）ヨリ横ニ眼後室ニ刺シ入レ其刀尖其室ノ中一分部位ニ至ルトキ横ニ後ヨリ前ニ向テ虹彩ヲ截リ開キ而シテ其刀ヲ抜ク而ルニ此術ニ於テハ其穿孔ノ再ヒ閉着シ易キガ為ニ屡其治ヲ誤ルコト「サルブ」名ノ説ノ如シ「サルブ」ノ説ニ曰ク假令之ヲ眼前室ヨリ施スト雖唯截リ入ルノミニシテハ必ス再ヒ閉着スル者ナリト「ヤラン」人名此方術ヲ学ヒ施シテ屡誤治ヲナセル後チ自ラ偶尓三種ノ方ヲ発明セリ即チ彼レ白内翳ノ方術ニ於テ誤テ虹彩ヲ傷ツク毎ニ其創口終ニ愈ヘサルモノ屡有テ而モ其創虹彩ノ纖維ノ條理ニ從フトキハ必ス愈ユルヲ見ル此ニ由テ以為ラク瞳孔ヲ穿ツニハ宜ク上ヨリ下ニ截ル可クシテ横ニ截ル可ラスト之ヲ患者ニ試ムルコト五回ニシテ終ニ方術ヲ定ム其方先ツ翳ノ剔出方ニ於ケル如クニ角膜ヲ截リ開キ其創口ヨリ剪刀（其一葉ノ尖ヲ鋭ニス）ヲ入レ其閉着セル瞳孔ヲ距ルコト一レインノ外ヲ竪ニ截リ開クナリ彼レハ此方ニ由テヨク功ヲ

得タリト雖之ヲ学ブ人ハ同功ヲ得ルモノ甚タ少シ

「セ子ー」地名ノ「マウノイール」人名カ発明セル所ノ方術ハ解剖術ニ本ツケリ即チ彼レノ実験説ニ從ヘハ虹彩ハ二種ノ纖維ヨリナルモノニシテ一ハ先芒状ヲ為シ一ハ輪状ヲナス而シテ其先芒状ノ纖維ハ虹彩ノ周圍ニ位シテ中央ニ向ヒ輪状ノ纖維ハ其内ニ位シテ輪ノ如ク瞳孔ヲ圍繞スルモノナリト彼レ此ノ纖維ノ條理ニ從テ先ツ其穿ツ可キ瞳孔當ニ如何ナラシメ其穿ツ可キ部位ハ當ニ輪纖維ノ中心ナル可キカ外圍ニ近カル可キカ中央ニ近カル可キカヲ定ム彼レ以為ラク纖維ノ條理ニ從フノ創ハ愈ヘ閉シ易ク斜創ハ其断ツ所ノ纖維ノ多少ニ從テ其創口多少相開ク可シ今横ニ断ツトキハ創縁互ニ牽縮シテ其孔大ナルコトヲ得可シ止

「マウノイール」人名曰予カ此方術ヲ施スヤ先ツ患者ヲ仰臥セシメテ其頭後ニ居リ角膜ノ縁剛膜ヲ距ルコト一レイン許ノ處ヲ刺シテ三レイン許ノ創

ロヲ造ル（但シ其部位ニ星翳ノ有ト無トニ拘ラズ）其創口ハ宜ク角膜ノ縁ニ従テ弧形ヲ為サシム可シ此ヲ擬スルニ剔出方ニ於ケルカ如クニシテ唯甚タ小ナルノミ日ト而シテ右ニ彼レカ用フル所ノ器具ハ剪刀ナリ（第二板一圖）其剪刀両葉ノ長ハ大抵七八「レイン」ニシテ甚タ薄ク其尖ハ々近キ處ニ於テ屈折ス（其屈折角ハ四十度ヲ為ス）而シテ其一葉ハ之ヲ眼前室ニ入レ可キ所ノモノハ其端ヲ微小球状ニナシ他ノ一葉ハ虹彩ヲ刺シテ眼後室ニ入レ可キ所ノモノハ其尖ヲ最鋭ニシ其端ヨリ一「レイン」ノ四分ノ一許間ニ及テ備ヘ其全長ヲ他ノ一葉ヨリ微々短フス

其施用法ハ此剪刀ヲ取テ前ニナセル所ノ角膜ノ創口ヨリ入レ其尖端ヲ新タニ瞳孔ヲ穿ツ可キ部位ニ至ラシム其入ルヽヤ宜ク剪刀ノ扁面角膜ト虹彩トノ間ニ正直ニハサマル可ラシメ直チニ其端ヲ微テ閉ヲ夫ル端ヲ虹彩ニ刺シ貫キ剪ミ截テ適宜大ノ創口ニ造ル此方術ハ甚タ駿速ナラシムヿヲ要ス宜ク其間ニ思想ヲナシテ遅滞スルヿ勿カルヘシ〇此方術ハ実ニ簡約ニシテ施スニ容易ク且ツ角膜ノ創口小ナルカ為メニ眼瞼ノ運動ニ由テ創唇ノ離ルヽ患ニナク内翳ノ剔出方ニ於テ屡見ルカ如キ害一モ此レ有ルヿナシ加之尚ヲ其利多キハ実ニ製置ヲ要セサルト術後直チニ眼ノ運動ヲ許シ可ナルトナリ唯患者ヲシテ施術後三四日光輝過度ナラサル室中ニ居ラシムルヲ以テ足レリトスルノミ此時日ヲ経ル後ハ太陽ノ光気ニ觸ルヽモ害ナク水様液ヲク聚テ敢テ復ス

「マウノイール」氏ハ此方術ヲ数人ニ施シテ十ニ大ニ功ヲ得タリ「シカルパ」名人曽テ「マウノイール」ニ書ヲ報シテ其方術ノ美ヲ賞誉シ且ツ曰ク此ニ「ワエンセル」氏ノ方術ヲ合セハ益可ナラント即チ其意ニ以為ラク先ツ「ワエンセル」氏ノ方術ノ如ク始メニ角膜ヲ剌スキ其刀ヲ以テ共ニ虹彩ヲ横ニ截リ

次ニ前刀刀（両葉ノ端共ニ微凸ニシテ球状ヲナスモノ）ヲ眼前室ニ入レテ虹彩ヲ前ノ創口ヨリ堅
ニ剪ミ以テ三角形ノ瞳孔タラシム可シ又タ以為ラク角膜ノ創口ハ宜
ク外背方ニ偏ス可ク虹彩ノ穿孔ハ内背方ニ偏ス可シト・
「アダムス」（人名）ノ方術ハ「セヽルデヽ」（人名前ニ出ツ）ニ本ツク所ノモノニシテ其用フル所ノ刀
細クシテ甚ダ薄ク其長殆ント一寸ノ四分ノ三許其幅ハ半「レイン」許ニシテ本
末狭広ナク一側ニ刃アリテ其尖端長カラズ微円形ヲナス（第二板四図）此
刀ノ刃ヲ後ニ（按ニ是者ノ後ナリ）向ケテ剛膜ヨリ刺ニ（其部位ハ白内翳ノ摘下ノ方ニ於ケルト同フス）其
諸膜ヲ貫キ入ルヽ片直チニ後ヨリ前ニ向テ虹彩ノ縁ニ近キ部ヲ刺
貫テ刀尖ヲ眼前室ニ出ダシ次ニ刀柄ヲ己ノ方ニ倚セル如クシテ尖端ノ
刃ヲ以テ虹彩ノ全横径ヲ截断ス其截断スルヤ軽ク圧シテ繊維ノ
一ミヲ断ルガ如クスルヿヲ要ス如此ニシテ截断シ終ル片ハ若シ尚ホ未
ダ十分ナラザルヿヲ見ル片ハ復タ已ニ刀尖ヲ前ニ向ケテ前ノ如クニ

ヲ截ル是ノ時其創唇自ラ繊維ノ縮力ニ由テ相離開ス
若シ白内翳ヲ兼ルヲ見ル片ハ其刀ヲ以テ直ニ水晶嚢ヲ分截シ一二
ノ砕片ヲ眼前室ニ出ダシテ其餘ハ其本位ニ残ス然ル片ハ自ラ新
造ノ瞳孔ニハサマリテ轄ノ如クヨク其閉着ヲ防ク
此施術間少許ノ血溢出シテ水様液ヲ溷濁スト雖モ後漸ク消散
シ尽シテ透亮トナリ新造ノ瞳孔横形ノ楕円トナリテ明カニ見ハ
レ光線ノ射入自在ナルヿヲ得ルニ至ル
角膜ノ曇翳セル症ニ於テ其曇翳ノ角膜ノ中心ヲ距ルヿ三分ノ一ニ
過サル片ハカ所及剛膜ノ縁ニ近ク虹彩ヲ穿チ毎ニ水晶体ト其
嚢トヲ截テ之ヲ其孔ニ摘ム若シ又其曇翳甚フシテ残ル所僅カニ一
「レイン」ニ過キザル片ハ外背方ノ上部ヨリ前ノ如クニシテ刀ヲ入レ（是レ術口ノ水様液ノ溢出スルヲ防ガ為メナリ）ニテ角膜ノ透明ナル部ニ對スルヤウニシテ虹彩ヲ竪ニ截開ク」

「ニ小」ハニヒイ一又タニヒイ一ノ八分一ト云義蘭尺ナラニカ為メニ和蘭ノ尺度ニ従テ之ヲ書ス

「ランゲンベツク」名ノ人以為ラク殊ニ虹彩ノ強ク牽張スル症ニ於テハ角膜ヲ刺メ之ヲ施サハ「アダムス」名ノ人ノ方術ヨリ施ス事容易カラン由テ一種ノ小刀ヲ製ス（第三板七圖）其尖端二小レイン若クハ二小半レイン間ハ其幅ヲ半レイントシ一側ヲ刄ニシ其尖ヲ「ランセト」状ニメ甚タ鋭利ニシ餘ハ二十豎鍼ト同フス之ヲ角膜ヨリ眼前室ニ刺シ入ルニヤ内翳ノ剔出方ニ於ケル刀如ク刄ヲ下ニシ指ヲ上ニシ入レ其尖端眼前室内ノ相對スル一方ニ届ク片刄ヲ虹彩ニ向ケ柄ヲ起メ抜キナカラ虹彩ヲ内背方ヨリ外背方ニ截リ開ク但ニ其截開ク片少シモ壓迫ナカランヿヲ要ス壓迫スルヿアレハ虹彩ノ縁毛様体ト共ニ截シ離ルヿアリ此事「アダムス」ノ方術ニ於テハ後ヨリ前ニ截ル片ハ其牽張ノ度ヲ失スルニ由テ常ニ屢々此レアリ

而レ圧其眼前室二甚タ小ニメ虹彩張出スルモノニ於テハ角膜ヲ傷ルイナク此刀ヲ眼後室ヨリ刺シ入ル可シ（按ニ「之ヲ角膜ニ以下入ル「ランゲンベツク」ノ考按ニメ述者ノ誤ニアラズ）

「ランゲンベツク」名ノ人此方術ヲ施スヿ三回ニテ其二回ノモノハ瞳孔全ク閉着メルシモ痕ナキ者ナリシニ之ヲ施メ両ナカラ共ニ功ヲ得ス故ニ第一回モノニ於テハ復タ已其角膜ノ創口ヨリ小鈎ヲ入レテ閉着セントスルヲ分離ニ第二回ノモノニ於テハ復タ已截離ノ方ヲ施セシトナリ

第二術　穿出方

此方術ハ虹彩ヲ截穿テ而メ后ニ其実質ノ一部分ヲ除去ル者ナリ「セヒルデン」名ノ人ノ法ニ従ヘテ穿入方ヲ施スニ誤治甚タ多クメ願フ所ノ功ノ得難キヨリ人々種々ノ工夫ヲナシテ其新造ノ瞳孔久シク保ツ可キヿヲ考ヘ白内翳ニ於ケルカ如ク或ハ剛膜ヨリ之ヲ施シ或ハ角膜ヨリ施シ或ハ種々ノ方術ニ由テ各一家ノ法ヲ立テ此ヲ試験スル者甚タ多シ

「ヅュアリン」名人北方術ニ於テ治ヲ誤ルモノ甚タ多ク且ツ以為ラク患者
内翳ヲ兼ルヿアルニアラスニハ其水晶嚢及ヒ水晶体ヲ毀傷スルノ害
少ナカラント由テ先ツ角膜ヲ截開テ其創口ヨリ穿瞳ノ器ヲ入ルヿ
ヲ考ヘ尚且ツ以為ラク然クスル片ハ出血スルヿアルモ其血排泄シ易ク
器具ノ動作甚タ容易クメ十字形ノ穿入ヲナスニ便ナラント但シ十
字形ニナス片ハ瞳孔殆ント圓形ヲ得ルモノナリ
「ウェンセル」名人モ亦「ヅュアリン」名人ト同ク「セヒルデン」名人ノ方術ニ由テ治ヲ誤ル
ヿ多ク且ツ瓦テ創唇ノ相閉着セシトスルハ是レ自然ノ常態ナル
ヿヲ考ヘ以為ラク虹彩ノ一分ヲ除去スルニアラサレハ之ヲ隔キ離カラ
ント由テ之ヲ患者ニ試ムルニ其功ヲ得ル者多シ且其方術左ノ如シ先
ツ剌角膜刀ヲ以テ横ニ角膜ヲ刺メ眼前室ニ貫キ入ルヿ内翳ノ
剔出ニ於ケルカ如クシ其刀尖ノ瞳孔ノ部位ニ近迄スルヿ半「レイン」
許ナル刀ヲ持スル所ノ手ヲ起シナカラ其動ヲ以テ虹彩ヲ刺シ貫キ
（刀尖ノ入ルヿ半レイン）次ニ之ニ反スル動ヲ以テ刀尖ヲ眼前室ニ見ハレシムル片其餘
ヲ截ル一「レイン」ノ四分三許而メ後ニ角膜ノ断餘ヲ截リ開テ對ス
ル所ニ至ラシム此ニ由テ其角膜ノ未タ半分ヲ断サルトキ虹彩既ニ穿孔
ヲ得ル此ニ至ル迄ヲ第一術ト名ツク
第二術ニ於テハ細キ剪刀ヲ角膜ノ創口ヨリ入レヲキ此ニテ虹彩創
口ノ両唇ヲ剪ミ取ルモシ其纖維速ニ牽縮メ創縁互ニ相離ルヽ
ヿアレハ小ナル毛引ヲ入レ曳キ出メ之ヲ截ル此穿孔ハ其実質ノ一部
ヲ失フカ故ニ再ヒ閉着スル力ナクヨツ光線ノ射入ヲ縦ニス
「デモウルス」名人ハ角膜ノ曇翳スルヿ甚タシキ者ト雖尚ヲ僅ニ残ル処
アリテ其部全ク愈着スルニ非レハ尚ヲ穿瞳術ノ施ス可キヿヲ證ス
即チ其書ニ曰ク「サウハヶス」名人君會テ二十二歳ノ時劇ト眼瞼衝恙

〔屡再発シテ角膜ニ膿腫ヲ発シ其腫瘍ヨリ水様液ノ溢泄セシモノ
数回卒ニ両眼共ニ角膜全ク曇翳シ唯左眼ニ於テハ其残レル處僅
ニ五分之一許有テ虹彩全ク角膜ノ裏面ニ固着シ毫モ水様液ノ
留マル位置ナク（下ノ論ニ合セス疑ラクハ原文ニ従テ疑ヲ存ス）此レカ為メニ全ク盲トナルモノ四
年予以為ラク右眼ハ治ス可ラスト雖左眼ハ猶ホ其一部ノ外背方ニ
於テ瞳孔ヲ穿タハ幸ヒニ視ルコトヲ得ント是ニ於テ剛膜ニ近キ部位ニ
於テ翳刀ヲ角膜ト虹彩トニ刺シ（但シ虹彩ノ創口ハ角膜ノ創口ヨリ微シク卑クス是レ其瘢痕ノ害ヲナサンコヲ恐レテニ）
次ニ其創口ヨリ直ニシテ細キ剪刀ヲ入レ其一葉ハ硝子液中マテ至ラ
シメ一葉ハ虹彩ト角膜裏面トノ間ニ挿ミ（但シ互ニ相離レテ固着セサル処ニ挿ム）マタ剪刀ニテ
截テ其虹彩ノ小部分ヲ除キ去リ以テ視瞻ヲ得セシムルニ至レリ上
其圖ヲ見ルニ此ノ新造ノ瞳孔楕圓ニシテ恰モ猫ノ瞳ノ如ク唯其横形
ナルヲ異ナリトスルノミ又「デモウルス」ノ言ニ曰ク此小孔実ニ眼ノ視点（原名ケンフトロコント）
外ニ在リト雖患者終ニ習慣シテ全ク明ヲ得ルニ至レリト
「セセルデン」氏ノ方術ハ唯先天ノ瞳孔縮ヿト虹彩纖維ノ牽張極度
ナルモノニノミ施ス可クシテ水晶体及其嚢毛状靭帯ノ毀傷避ク可ラサ
ルカ為メニ同「ヘール」氏并ニ「ヤニシ」氏ハ角膜ニ大孔ヲ造テ虹彩纖維ノ條理ニ
従ヒ穿ツノ方術ヲ修正シ更ニ一法ヲ立テ直ニシテ細ク鋭尖ナル小刀ヲ上
ヨリ下ニ向テ角膜ト虹彩トニ刺入レ以テ強ク牽張セル虹彩纖維ヲ
横ニ断ツ故ニ虹彩ノ創口ハ角膜ノ創口ヨリ微卑キヿヲ得ル彼
レ此ノ術ニ由テ功ヲ得ルモノ甚タ多シト雖諸症ニ遍ク皆ナ適當スルモ
ノニ非ス殊ニ虹彩ノ角膜裏面ニ愈着スルモノニ於テ然リ何ト
ナレハ諸症ニ於テ必シモ皆ナ常ニ牽張スル者ニアラサレハナリ彼レ
此術ヲ種々ノ症ニ施シテ直ニ瞳孔ノ閉着スル者アルヲ見ルカ故ニ
「ウエニセル」氏ノ方術（端ニ出ツ）ニ従テ之ヲ試ムレトモ亦其利ノ少ナキヲ見ル

是ニ於テ以為ラク虹彩ノ一部ヲ穿出スルニハ宜ク小鈎ヲ用フ可キナリ
ト之ヲ患者ニ施スニ其功最大ナリ
其術ヲ施スヤ先ツ角膜ヲ截ルヿ剔出方ニ於ケルカ如クシ次ニ小鈎
ヲ其創間ニ入レ虹彩ノ一處瞳孔ノ本位ニ最近キ部分ヲ鈎ケテ
之ヲ外ニ曳出シ「カヒール」氏ノ剪刀ヲ以テ之ヲ截リ除ク彼レ自ラ曰
此方術ニ於テハ出血スルヿ甚タ少ナシト
「キブツヒ」氏ハ内翳ノ剔出方ニ於テ虹彩ノ外ニ脱垂シ易キト此ヲ細キ
曲剪刀ヲ以テ截除クヿノ難カラザルトヲ見テ穿瞳術モ此法ニ由
テ施ス可キヿヲ考ヘテ方術ヲ立ツルヿ左ノ如シ
先ツ眼瞼ヲ保持固定スルヿ内翳ノ剔出方ニ於ケルカ如クシ次ニ
廣幅ノ翳刀ヲ取テ角膜ニ（剛膜ヲ距ルヿ殆ント一レイン）三レイン許ノ孔ヲ穿チ
眼ヲ壓迫スルノ事件（按ニ瞼ヲ保持スルノ類）盡クミナ之ヲ去テ徐ツカニ其刀ヲ

抜ク此時水様液自テ溢泄シ虹彩創間ニ進ミ之ヲ閉ツ是ニ於テ示
指ト中指トヲ以テ軽ク眼球ノ上部内方ヲ壓迫スレハ虹彩之カ為メ
ニ漸ク張出シ其創外ニ出ツルヿ大ナル「スペルデユノブ」豌ノ大ニ至ル其
時細キ曲剪刀ヲ取テ挺出セル部分ヲ截除キ壓迫ヲ止メ虹彩ヲ
其本位ニ帰ラシムレハ殆ンド圓形ノ瞳孔ヲ得ル其施術ノ持虹彩及
其近傍ノ部分異常アルニアラザレハ其穿孔必ス保續スト云フ
「ミユテル」人名ハ穿瞳術ニ於テ水晶体及其嚢ノ毀傷ヲ禦カンカ為
メニ虹彩ノ外圍ニ近キ處ニ穿タンヿヲ欲ス何トナレハ眼後室ハ
假令ヒ小ナルモ必周圍ニ於テハ稍闊ク且ツ虹彩ノ外圍ニ近キ部ハ
閉着スルノ力弱ケレハナリ尚且ツ其角膜ノ中央曇翳シテ瞳孔ヲ
本位ニ穿チ難キモノニ於テハ此方最モ適當ス其方術左ノ如シ
能ク眼ヲ保持固定シ後チ薄キ翳鍼ヲ取リ之ヲ角膜横徑ノ

端合際ノ處ニ於テ剛膜ノ部ニ刺ス其時術者ノ意ニ恰モ虹彩ノ縁ヲ毛状翦帯ト截リ分ツ如クナランヿヲ要ス且ツ其鍼ノ水晶体ニ至ラサル可キヤウニ意ヲ用フ可シ而シテ后ニ其鍼ヲ抜テ細キ剪刀ヲ用テ其剪刀ハ一尖ヲ鈍ニシテ圓形ナラシメ一尖ハ翳鍼ノ如クニシテ薄ク且ツ鋭ナラシメ彈子ヲ以テ両葉ノ開キヲナサシメ其開度四レインニ過クルヿナク且ツ両葉ヲシテ相平行セシム此剪刀ヲ用フルヤ其鈍尖ヲ前ニナセル所ノ剛膜ノ創口ヨリ入レ其鋭尖ヲ以テハ角膜ニ刺入ル由テ虹彩ヲ両葉ノ間ニ狹ミナカラ瞳孔ノ縁ニ至ラシメ両尖ヲ微ニ下ケ示指ヲ以テ押テ之ヲ合シ以テ虹彩ノ全幅ヲ断ツ（按スルニ瞳孔ノ縁ト云ヒ又虹彩ノ全幅ト云フ片ハ是瞳孔ノ全ク閉着セルモノニ非ス之ニ由テ此ヲ觀レハ此術ハ唯角膜ノ中央曇翳セルモノニ施スノミナル可シ）其両葉彈子ノ為メニ開ク片再ヒ尖端ヲ上ニ向ケテ又之ヲ断ツ此ニ由テ虹彩ノ一部三角形ノ切片トナルモノハ剪刀ヲ抜テ直チニ小鈎ヲ入ル之ヲ曳出タス

此方術ニ於テハ其剪刀ヲ抜クニ至ルマテ水様液溢泄セズ故ニ眼内ノ諸部位置ヲ亂タサズ又器具ノ動作甚タ容易ニシテ又其創口ノ假令虹彩ノ切片ヲ出スカ為メニ十分ノ廣濶ヲ得ルト雖モ二レインニ過キズ且ツヨク其角膜ヲ刺貫クト及剪刀ノ開闔ニ意ヲ用フル片ハ創口正クシテ其唇乱レズ角膜ノ縁ヨリ前僅ニ一レインニ過サル可シ是故ニ假令瘢痕ヲ残スモ著シキニ至ラズ

其水晶体既ニ方術ニ由テ除去セルモノニ於テ且ツ其角膜ニ曇翳スル所ナキ片ハ其瞳孔ヲ本位ニ穿ツヲ佳トセリ

其術タル幅二レインノ小刀ヲ以テ剛膜合際ヲ距ルヿ一レイン許横中径ヨリ上ニ偏スルヿ一レインノ處ヨリ角膜ヲ刺シ其尖ヲ虹彩全幅三分一ノ処ニ貫キ其尖ヲ以テ虹彩ノ裏面ヨリ前面ニ向テ復截開クヿ二レインニ其尖ノ前面ニ見ルヽ片直ニ再ヒ其部ヨリ之ヲ虹彩ニ刺シ刀

ヲ引キ十ガラ截テ前処ニ帰シ虹彩ノ一部自ラ横形ノ切片トナルカ
ヲ抜キ剪刀ヲ以テ此切片ヲ除キ去ル
若シ水晶体未タ除去セサルモノニ於テ此方術ヲ施サントスル時水晶体
ノ既ニ昷翳セルヲ見ル事アレハ共ニ水晶嚢ヲ刺メ水様液ヲ滲入セ
シメ日ヲ経テ後ナ時宜ニ従テ其水晶体ヲ除去スルノ方術ヲ施スモ
シ又虹彩水晶嚢ニ愈着メ窠瞳術ノ施シ難キ事アル時ハ数々鍼ヲ
虹彩ト水晶嚢トニ刺メ之ヲ小片ニ截分チ才キ後再々術ヲ施メ其
小片ヲ除キ出ス而メ后ニ瞳孔ニ適宜ノ大ヲ得セシム
「チユビンゲン」地名ニ於テ一女児齢九歳痘瘡ニ由テ其角膜全ク昷翳
ス此ツメ視瞻ヲ得セシメンガ為メニ先ツ獣類ニ於テ眼ノ剛膜ニ瞳
孔ヲ造リ視ル事ノ得可キヤ否ヲ試ミシ人アリ即倘眼ニ二個蓋
ニ個ハ其孔消失シ餘ハミナ全径一レイン許ノ凸起セル小黒点トナリ唯

ニ明暗ヲ分ツノミナラズ遠距セル物品ヲモ辨スル事ヲ得タリト云フ「アウ
テンリート」人名ハ此試験ヲ以テ一書ヲ著セリ 或人云フ此ノ瞳孔ヲ造ルニハ
宜ク三角形ニ截テ其隅角ヲ剪刀ニテ除キ去リ其餘ノ膜モ同ク截開
テ光線ヲ直ニ硝子様液ニ入ラシム可シト

第三術 截離方

此術ハ虹彩外圍ノ一部ヲ醫鍼ヲ以テ毛状靭帯ヨリ截リ離ノミニテ毫
モ其実質ヲ除去スル事ノ無キノ方ナリ此方ヲ始テ発明スルハ「ヨアルパ」人名「スク
ミツト」名ノ両名家ニテ両家各々其先ナル事ヲ争フ蓋シ此方術ノ利多
キ事ハ時ノ宜キニ従テ剛膜ヨリモ施ス可ク亦角膜ヨリモ施ス可キナリ」
「ヨアルパ」人名「スクミツト」名ノ両家共ニ解剖術ニ於テ虹彩ト毛状靭帯トノ
繋着ノ甚タ脆弱ニシテ僅微ノ刀ニモ離折シ易キヲ見テ以為ラク窠瞳
術ニ於テモ此繋着ヲ截リ離タハ施スモ容易カラントト因テ之ヲ実験ニ

徴スルニ亦功アルヲ見ルヿ其方術左ノ如シ
患者ノ坐スル内翳ノ方術ニ於ケルカ如クシ次ニ翳鍼ヲ以テ剛膜ヲ刺シテ其部位ハ外眥方ニ於テ角膜ヲ距ルヿ二「レイン」ノ処ナリ而シテ其鍼尖ヲ微シク前ニ偏シテ虹彩裏面ト水晶体前面ノ間ニ進メ鼻方ノ虹彩縁ニ至ラシメ其最モ毛状靭帯ニ近邇スル所ノ処ヨリ貫テ鍼尖ヲ眼前室ニ見レシム是時其鍼尖ノ出ルヿ力於及少ナカラシムヿヲ要ス之レ角膜裏面ヲ損傷セサラシメンカ為メナリ而シテ后ニ其鍼尖ヲ以テ上ヨリ下ニ向ヒ内眥方ヨリ外眥方ニ向テ排シテ虹彩縁ヲ毛状靭帯ト離析セシメ其離析適宜ヲ得ルノ時鍼尖ヲ創間ノ下端ニ下ゲ虹彩ヲ顛覆方ニ曳テ以テ所好ノ大ヲ得セシメ而シテ后ニ鍼ヲ抜ク其術中出血甚タ少ナク其始メ房水様液ヲ溷ストモ漸ク吸収セラレテ再ヒ透亮ナルヿヲ得ル

「ベール」人名ハ「スクミツト」人名ノ鍼ヲ以テ時ニ瞳孔ヲ穿タントスル部位ニ相反対スル方ヨリ角膜ニ刺シ直ニ眼前室ヲ貫キ毛状靭帯ノ処ニ至リ以テ虹彩ヲ離析シ入ル、ヿト同シ向方ニテ少シク其鍼ヲ引キ如此クスルヿ数次ニシテ其術ヲ終ル云ヘリ

「ランゲンベツク」人名「ボンセル」人名及「ワインシンゲル」人名ノ三家此ク刺角膜截離方ヲ大ニ変革セリ

「ランゲンベツク」ノ刺角膜截離方ノ利益甚タ多キト穿出方ノ誤治少ナカラサルヿトヲ実験セルヨリ宜ク穿瞳術ハ刺角膜截離方ナラサレハ施ス可ラサルヿヲ決シ自家ノ刺角膜翳鍼ヲ以テ之ヲ施セリ但シ其鍼ノ鉤リヨリ虹彩ヲ刺スト之ヲ毛状靭帯ヨリ離ストニ便ナラシム而シテ此ヲ角膜ニ刺スヤ外眥方ヨリシ鉤背ヲ角膜ニ向ケテ虹彩ノ毀傷ヲ懼キ其尖端ノ眼前室ニ入ルヤ否ヤ鍼ノ向方ヲ轉シテ其瞳ヲ

所ノ手ノ状ヲ内翳ノ剔出方ニ於ケルカ如クシ以テ其鍼ヲ進メテ尖端ヲ
虹彩ノ一方ニ至ラシメ刺メ之ヲ毛状靭帯ト離析ス
「ランゲンベツク」名人又此方ニ於テモ剛膜ヲ刺メ施スモノニ於ケルカ如ク前述
ノ瞳孔屡縮トスルト アルヲ実験メ以為ラク適当スルト適当セサルトノ
症アリト且ツ水晶体ノ既ニ曇翳セルモノニ於テハ毛様体亦タ光線ノ
射入ヲ妨クルヿアルヲ実験ニ死屍ニ於テ一種ノ試験ヲナセリ即チ
翳鍼ヲ以テ先ツ角膜ニ創口ヲ造リ「ヨベール」名人ノ小鉤ヲ入レテ虹彩ニ鉤
ケ毛状靭帯ヨリ引キ離ツニ其功當ニ佳ナル可キヲ見ルニ由テ之ヲ患
者ニ施スニ亦タ大ニ功アリ後ナ変革メ方術ヲ定ムルヿ左ノ如シ
先ツ補者ヲメ「コーレリウス」名ノ「テーゲンホウデル」（絹糸ヲ以テ緩絡ス）子ノ属 按ニ定瞼ヲ以テ
上瞼ヲ保固セシメ醫刀ヲ角膜ニ刺メ小鉤（第二版六ノ図）ヲ入ル可キ適宜
大ノ創口ヲ造ル（其創口ハ時ノ宜キニ從テ或ハ上辺ニナシ或ハ下辺ニナシ或ハ側辺ニナス）而メ其小鉤ヲ持ツヿ醫鍼

ヲ取ルカ如クニシ鉤ノ尖ヲ下ニ向ケ圓形ナル鉤背ヲ上ニシ圖篇ヲ瞳孔（按ニ唯其部位ヲ指ス）
ニ向ケテ角膜ノ創口ニ押シ眼前室ニ入ルヿ直ニ斜メニ前ニ向
ケテ之ヲ進ムヿ恰モ角膜ヲ虹彩ヨリ遠サケシメテ眼前室ヲ潤クナ
ラシムルガ如クシ其端ノ虹彩外縁ニ届クヤ否ヤ柄ヲ捻テ其尖ヲ虹彩ノ
縁ニ當テシメ柄ノ己レノ方ニ向ケル意ニテ強ク虹彩ニ鑽入セシメ微ニ曳
テ其鉤ノ能ク固着セルヤ否ヤヲ試ミ而メ后ニ小指ヲ頬ニ當テ之ヲ手ノ支
柱トナシ意ヲ用ヒテ徐々ニ曳キ出セバ従テ玲瓏タル黒色ノ瞳孔ヲ生
ス而メ其虹彩ノ鉤尖ニカヽル部ハ之ヲ角膜ノ創間ヘ押シ意ヲ用テ
其鉤ヲ取リ其状ヲ恰モ虹彩脱垂ノ症ニ於ケルカ如クナラシム由テ固
ク角膜ニ着メ原ニ復ルヿナシ
「ランゲンベツク」名人千八百十七年中此方ニ由テ穿瞳術ヲ施スヿ三十次ニシテ
ヨク全功ヲ収ムト且自ラ云フ其小鉤ニ鉤ル所ノ虹彩繊維ノ係理ニ

従テ破レ易クヨクヨク熟練セル手ニ非レハ之ヲ曳出スヿ弛離シ易シ
ト」由テ又一種ノ器ヲ発明ス此器ハ前膜ノ創口ヲ大ニスルヿヲ要セス虹
彩ヲ破綻セシムルノ患ヒモ少ナク之ヲ外ニ曳出スモ前ノ如ク難カラス」
其器ハ一個ノ銀管ニメ其外面ヲ粗糙ニシ其中ニ小鈎ノ柄ヲ含ミ其端
ノ細キ処ニ入ルノ細管ヲ接ク其細管ノ端ハ鈎腹ニ合スヘク側面ヲ
以テ鈎ノ尖ト密合ス可クナサシム（是レ虹彩ノ弛離セサラシ 第三板三図及其解）又其小
鈎ノ柄鋼ノ「コノピー」譯字ヲ知ラズ図ヲ見テ解スヘシ即三図三符ヲ接テ之ヲ銀管ノ深ニ在ラ
シメ此ヲ以テ其鈎ヲ進ムルヿ「ボトヒードヘ」ニ詳ナス器ノ名 図稿ノ如クニシ又銀管
ノ太キ部分ニ於テ鈎柄ノ周ニ跑形ノ弾子ヲ備ヘ此ヲ以テハ其鈎ヲ
メ自ラ退カシム（第三板二図）
先ツ翳刀ヲ以テ角膜ニ小孔ヲ開キ此器ヲ翳鍼ヲ取ルカ如クニ持ツ但シ
示指ヲ「コノピー」三図三符ノ後ニ置ク可シ而メ其器ノ端眼前室ノ中央ニ至ル

此ニ示指ヲ以テ「コノピー」ニ挿ミ鈎ヲ進メ以テ虹彩ノ外縁ヲ鈎ケシテ指
ヲ弛メナガラ徐々ニ其器ヲ曳ケハ鈎自ラ退テ管端ト合ス故ニ虹彩自
ラ弛離メ原ニ復ヘルノ患ヒナシ如此クシテ之ヲ十分ニ外ニ曳出スヒ再ヒ
鈎ヲ進メテ之ヲ弛シ去ルヿ「テニケシベワク」名此方ヲ死屍ニ試ルヿ数回終
ニ之ヲ患者ニ施メ全功ヲ得タリト云フ
「ホシセル」名人ハ一種ノ小鈎ヲ以テ眼球ヲ固定シ兼テ下瞼ヲ曳下ケ又別ニ
銀線ノ小鈎ヲ以テ上瞼ヲ揭ケ但シ其上瞼ヲ揭クルノ鈎ハ輔右ノ手ヲ
假テサルカ為メニ強キ絹紲ヲ以テ之ヲ患者ノ頭巾ニ固持セシメ而メ
后ニ「テニセヒ」状ノ翳刀ヲ以テ角膜ノ剔出方ニ於ケルニ同ヒ部位ニ二ヒノ一
ニ許ノ創口ヲ造リ甚小ノ鈎ヲ入レテ虹彩ノ毛状靱帯ヲ距ルヿ一レイン
ハ四分一許ナル処ニ鈎ケ曳テ之ヲ離析セシム 桜ニ餘ス「テニケニベツク」ト同シキナル可シ
「コイシニゲル」名人カ発明メ自ラ難症ニ於テモ施用スヘキヿヲ證スル所ノ

器ハ毛引ノ二種(第三板八九圖)アリテ其端鉤ナリ(イ符八九圖)故ニ之ヲ合スル時ハ尋
常ノ鉤トナル(一九圖イ符)其両葉(八九圖ロ符)ハ本ヨリ至ルニ従テ漸次ニ大クシテ全器ノ
長大抵四寸二分五厘許其リ山ニ至ル(八九圖ハ符)ノ長ハ二寸二分五厘許ニシテ其内
面ハ平坦ニシテヨク相密合ス可カラズ其外部ハ半ハ象牙ヲ以テ覆ハシメ
合スル時ハ八角形ノ柄トナル可ラシム(八九図ハ符)譚子(八九図ニ符)ノ力ハ鉤端(符)
ヲ開クノ力ヲ一ニ過ルヲサラシム可クシテ而シテ此器ヲ鉤毛引(原名ハーカタンジヱハーカハ鉤ノ義ナリ
ニジヱハ毛引ノ義)ト名ツク
其術ヲ施スヤ「コレセトレ」状ノ醫刀ヲ以テ角膜ノ外側縁ニ一レイニ半
若クハ二レイニノ創口ヲ造ル其刀ヲ刺スヤ創口一レイ二半許ナル「ヲ得
ル時ハ必ズ之ヲ抜クノ「ヲ要ス若シ創口ノ大ナラン「ヲ欲スル時ハ其抜ク
時ニ截リ開ク
次ニ瞼ヲ微開サシメ鉤毛引ヲ醫刀ノ如ク持チ其尖ヲ下ニ向ケテ揷

ヲ手ノ支柱トシテ之ヲ眼前黒睛ニ入レ角膜ノ裏面ニ沿テ将ニ離栫セシメ
ントスルノ部位ニ至ラシメ刀所及毛状靭帯ニ近接シテ其尖ヲ虹彩ニ向ハ
シメ是ニ於テ其鉤端ヲ開ク其開クヤ一レイン許タタキモ二レイニニ過ギズ
而シテ其鉤ノ圓端ヲ微毛状靭帯ニ撞キヨセテ鉤尖ヲ虹彩ニ刺入レ
之ヲ合シテ其繋着ヲ拆タシメ以テ徐ヒニ之ヲ曳キ出ス実間常ニ
鉤背ヲ角膜ニ向ハシメテ此膜ニ鉤尖ノ鉤テ引カヽル「ヲ要ス而シテ其角膜
ノ創間ニ出ヅル時鉤ヲ弛ヒ速ニ瞼ヲ閉サシム是レ創唇ヲシテ之ヲ挟
メル挫セシメンカ為メナリ由テ以テ三角形ノ瞳孔ヲ得ル
二三分時(我邦ノ半時ヲ六十ニ分ツ者ヲ一分時ト云)ヲ過キテ後チ之ヲ點検スルニモシ其虹
彩ノ脱垂未タ成テサルヿヲ見ル時ハ再ビ之ヲ曳キ出タシテ創間ニ
挟挫セシム若シ其瞼ヲ開ク時角膜創口ノ大ニ過クルカ為メニ虹彩
ノ原ニ復ルモノナルヿヲ見ル時ハ更ニ曳出シテ之ヲ截除ク(即除離方)又

其眼ノ轉動シ易キモノニ於テヨリ術ノ全功ヲ収メンカ為メト再ヒ虹
彩ヲ除去スルノ容易ナランカ為メニハ一種ノ小鈎ヲ結膜ニ鉤ケテ以テ
其眼球ノ向方ヲ固定スルニ由テ施術甚タ固然ハ「レイシンゲル」氏ノ云フ此方
術ハ角膜ノ曇翳スル乁多少大ナルモノニ於テモ角膜ト虹彩ト癒着
スルモノニ於テモ水晶体及ヒ其囊ノ健康ナル者ニ於テハ疾病アルモ
ノニ於テモミナ之ヲ施ス可シト

角膜殆ントミナ曇翳シ虹彩全ク着シ穿出方モ截離方モ施メ功
アル可ラサルモノニ於テハ内翳ノ有無ニ拘ラス剌角膜翳鍼ヲ角
膜ノ中央ヨリ虹彩ノ中央ニ刺シ貫キ水晶体ヲ椅下シ若クハ截破
シ次ニ翳刀ヲ以テ其鍼口ヲ虹彩ト共ニ二レイン許ニ截リ潤ク此創
口ヨリ鈎毛引ヲ眼後室ニ入レ角膜ノ透明ナル部位ニ於テ裏面ヨ
リ毛様捩ニ共ニ虹彩ニ鉤ケテ剥離セシメ曳キ出メ之ヲ截除クヘシ

若シ角膜ノ曇翳スル乁其全面ノ三分二若クハ四分三ニシテ眼前室
尚ホ一部分残ル所アル片ハ將ニ離捬セントスル部位ヲ距ル乁二ヒイン
若クハ三ヒイーンノ処不透明ノ部ニ創口ヲ造クル是レ曇翳ノ増サン乁
ヲ防ク為メナリ

若シ二ノ病因アリテ虹彩纖維著シク牽張スル乁アル片ハ此方術ヲ
施スヲ無益トス啻ニ其纖維ノ牽縮ニ由テ離捬復タヒ縮小シ易キ
ノミナラス撥維造ノ虹彩脱垂ニ由テ生シ易キ所ノ角膜ノ曇翳大ニ
増大スルノ患アリ

瞳孔ハ尚ホ健康ニシテ角膜ノ曇翳之ヲ蓋フモノニ於テハ先ツ真若
越幾斯剤ヲ用ヒテ後チ剌角膜翳鍼ヲ角膜ノ中央ヨリ刺シ水
晶体ヲ椅下シ若クハ截破シ次ニ角膜ニ小創口ヲ截開テ鈎毛引
ヲ入レ虹彩ヲ毛状靭帯ヨリ離捬メ之ヲ截除ク

此ノ方術ハ両鉤ノ相合スルカ為メニ虹彩ノ創口他ノ截離方ヨリ大ナルヿヲ得ル而レ𪜈其虹彩脱垂ノ角膜創辰ニ急着スル処ニ於テ必ス少シク曇翳ヲ残ス

此ノ鉤毛引ハ其作用甚タ容易ニシテ且ツ鉤ト毛引ノ両用ヲ兼子其開合ニ由テ虹彩ノ創口所好ノ大サヲ得其突出スニ自在ノ向方ヲ得截除クヒモ広ク所好ニ適スルヿヲ得ル尚ヲ且ツヨリ意ヲ用ヒテ之ヲ扱フトキハ水晶体及其嚢ヲ毀傷シ内翳ヲ生セシムルノ患ヒナシ「コレイーシニケル」人名自ラ此器ヲ種ゝノ症ニ用ヒ且ツ「ヘーベル」人名「サヒクス」人名等ノ名家モ皆此ヲ用ヒテ益其利ノ甚タ多キヲ見ル

「コヘルリニ」人名ノ「カラー」人名又更ニ「コレオヒオニ」名未詳ト名クル所ノ一種ノ新器ヲ発明スルヨリ此截離方益貴キヿヲ得ルニ至レリ此器ハ（第二板五六七及八図）二寸許ノ細キ両鋼條（ハガチノハリガ子）ヨリ成ルモノニテ其一條ハ固ク柄ニ着テ揺クヿナク其端ヲ鉤（マガリ）度甚タシカラザル小鉤トナシ他ノ一條ハ其鉤ノ尖ク覆フニ備フル所ニテ進退ス可クシ側ニ二種ノ輪アリテ鉤ヲ抱ク而シテ柄中ニ於テハ此ニ小ナル横柱（七図三符）ヲ接ケ之ヲ扁輪（七図二符）ニ通シ指ヲ以テ此扁輪ヲ進ムレハ共ニ進ミ扁輪ヲ退クレハ共ニ退クヿ可ナラシメ其進退スル所鈍端ノ鉤先ニ合スルヿ毛引ノ合スルカ如クナラシム而シテ其柄ノ上端ニハ又小ナル「ランセト」状ノ小刀ヲ附ス

其方術先ツ患者ヲシテ白内翳ノ施術ニ於ケルカ如ク座ラシメ輔者ヲシテヨク之ヲ固持セシメ柄端ノ小刀ヲ角膜ニ刺入ルヿ一「レイニ」許其部位ハ角膜剥出方ニ於ケルカ如クシ之ヲ抜クトキ少シク下ニ截リ濶ケテ創口ノ大サ「コレオンシオン」ノ端ノ一倍タラシム是レ此器ヲ扱フヿノ容易カラシメンガ為メナリ而レ𪜈慎ンテ大ニ過ス可ラズ大ニ過クルトキハ虹彩此レニハサマリ離ミ是時水晶様液泄溢シ虹彩張出シ以テ其創口

ヲ闔ツ其眼モシ感觸甚タ強キ時ハ一タヒ其瞼ヲ閉サシメモシ然ラサル時
ハ直ニ虹彩ノ離析ヲナス其術左ノ如シ
先ツ拇指ト中指トヲ以テ「コレオンシオン」ヲ取リ（示指ハ旋擶ス）（第二板ノ十一圖）小指
ヲ顴骨ニ當テヽ手ノ支柱トナシ器ノ端ヲ合シナカラ角膜ノ創口ニ來ラ
シメ創唇ヲサグリ開ケテ正直ニ入リ易カラシメ次ニ柄ヲ正横ニ向ケテ徹リ
側動シナカラ鈎ヲ虹彩ノ將ニ離析セントスル部位ニ屆テシメ示指ヲ
以テ柄ノ輪（二圖）旁ニ觸レテ其一條ヲ退ケ鈎夫ヲ毛状靭帯ノ縁ニ刺シ
之ヲ鈎ケテ又示指ニテ輪ヲ進メテ其端ヲ合セシメ恰モ毛引ヲ以テスルカ
如クニ虹彩ヲ輕ク徐々ニ曳テ毛状靭帯ト離析セシメ以テ角膜ノ創口
ニ出シ其創唇ニ挿テ之ヲ嵌ス
此器種々ノ試驗ニ由テ其ヨク術適當スルヿヲ見ルト雖其鈎ノ甚タ小
ナルカ為メニ虹彩ヲ毛状靭帯ト離析スルヨリハ唯纖維ノ條理ニ從テ

破リ易キノ害アリ而ルニ「コレイシンゲル」人名ノ鈎毛引ハ其鈎端ノ相開クカタ
メニ虹彩ヲ破ルニ少シモ害アルヿナシ故ニ「ガラーフ」人名再ヒ鈎毛引ニ徹
ニ其制度ヲ改革シ其鈎ヲ二條トナセリ（第二板九及十圖）是ニ由テ其用益大
ナルヿヲ得ル
其二條ノ鈎ハ甚タ細クメ之ヲ合スルモ猶已前ノ一鈎ヨリ大ナラス一ロイ
ン許ノ開キヲ得ヘキ適宜ノ彈力ヲ有セシメ且ツ「ロイシンゲル」人名ノ器ノ如
クニ其内面ヲ平坦ニシヨク密合スヘカラシメ其合スル時恰モ一條ノ鈎
ノ如キヲ得セシム其他ハ前ニ差フ所ナシ唯銀輪九圖ニ符有テ両鈎ヲ
抱キ進メハ其鈎互ニ相合シ退ケハ相開クヘカラシム但シ此輪ハ鍍金（メツキ）
トナスヲ殊ニ佳トス
此器ニ由テ施スノ方術ハ其瞳孔ヲ穿ツノ部位ニ於テモ定レルニ非ス
宜ク時ノ宜ニ從テ上下左右ヲ擇ハス之ヲ施メ可ナリ此器ハ又内翳

施術后ニ翳ノ碎片ヲ除キ出タスニモ甚タ便ナリ

第四術　離除方

此術ハ虹彩ヲ毛状靱帯ト離折シ之ヲ角膜ノ創口ヨリ外ニ曳出シテ截除スルナリ

「アッサリ」ト名ル人曾テ虹彩ハ毛状靱帯ト繋着ヲ破ルコトナクモ離折ス可キコヲ見テ穿瞳術ニテ之ヲ用フ可キコヲ発明セリ其后ニ用フル所ノ器ハ彼レガ曾テ千七百八十七年ニ用ヒシ所ノモノニテ即「セヽルデ」ト名ル人ノ小刀ナリ其小刀ハ其本ト圓ク柄ニ固着シ側ラニ甚タ細ク尖鋭ナル一葉ヲ附シテ毛引ノ如クシ彈子ヲ以テ之ヲ合ス可キナサシメ之ニ第板五図其尖端ノ互ニ相合スル所ニ迷ヲ設ケテ合縫ヲ密ナラシム此端ハ虹彩ヲ挟テ毛状靱帯ヨリ離析シ角膜ノ創口ニ出タシ以テ截除スルニ備フ又柄ノ一端ニハ翳刀ヲ附ス「アッサリ」ト名ル人此ノ翳刀ト毛引トヲ「ダヒール」ト名ル人ノ剪刀トヲ縦テ種々ノ方術ニテ之ヲ施セリ其離除方ニ於ケルモノ左ノ如シ

若シ内翳固ク虹彩ノ裏表面若クハ瞳孔縁ニ愈着シテ分離セシメ難キノ片若クハ瞳孔ニ假膜ヲ生シテ全ク閉塞スル時ハ先ツ其翳刀ヲ以テ角膜ニ十分ノ孔ヲ開キ指ヲ以テ其毛引ヲ開キナカラ其鉤葉（ヘーケイキブラット）ヲ眼前室ニ入レ水晶体ノ中心若クハ假膜ヲ刺シ貫キ再ヒ角膜ノ創口ニ引テ復タ其不動ノ葉（オンベウェーゲレイキブラット）ト共ニ入レ虹彩ヲ挟ミ意ヲ用ヒテ曳テ毛状靱帯ト離析セシテ角膜ノ創間ニ出シテ「ダヒール」ト名ル人ノ剪刀ヲ以テ之ヲ截除ク

瞳孔ノ全ク縮閉セル症ニ於テハ内翳ノ有無ニ拘ラス角膜ヲ刺スヿ内翳ノ剔出方ニ於ケルカ如クシ自家ノ毛引即第三板五図ヲ以テ虹彩ノ中央ヲ其創間ニ曳出タシ剪刀ニテ之ヲ截除キ而メ后ニ内翳アルヿヲ見ル時ハ新造ノ瞳孔ヨリ擠下シ或ハ剔出ス

角膜ニ大班若クハ瘢痕ヲ生シ尚ヲ其縁ニ少シク透明ナル処アル件ハ
角膜ニ創口ヲ造リ其毛引ヲ入レテ其透明ノ部ニ對スル所ノ毛線挟
ヲ陰ニシ以テ光線ニ自在ニ射入スヲ得セシム
或人云ク「アッサー」ト云人ノ器ハ此ヲ入ルニ角膜ノ創口他ノ方術ニ於ケルヨ
リ甚タ大ナラサル事ヲ得ズト「デオニツ」ト云人「アウサリ」ト云人ノ書ヲ飜譯シ其
詳説ニ徴シヤ此ノ事ヲ為ヘリ而シテ予以為ラク此器モサヨシク其制ヲ變
セハ小孔ヨリ入レテ大孔ヨリスルモノト同功ナル事ヲ得可キ事無キニ非ラ
ス

前ノ截離方中ニ挙クル所ノ「ヨ」「シンバブル」ト云人ノ方術中宜シク此ニ列挙ス
可キモノ有ト雖其方術全ク離除方ヲ主トセサルカ故ニ爰ニ列挙セス
ハ却テ類次ナキニ至ル

問テ曰穿瞳ノ方術種々アリ其中何レカ他ノ方術ヲ廃テ恃ム可キ
用フヘキ者アリヤ曰ク其答宜ク較然タラズンハアル可ラズ夫レ第一術ハ穿瞳
方ハ既ニ一タヒ之ヲ棄廃セラレタリト雖「マウノイル」ト名ル人「アリバスス」ト名ル人ニ由テ終復
タヒ世ニ行ハルヽニ至ラズヤ又「シナルバ」ト名ル人「コスクミツト」ト名ル人「ウユンセル」ト名ル人「キブウ
シ」ト名ル人「シュテル」ト名ル人「アウサリ」ト名ル人等ハ他ノ方術ニ由テノ至善ノ大功ヲ得シニ
アラズヤ之ニ由テ此ヲ見レハ方ニ拘ラス他方ノ療廃棄スルハ甚タ宜シカラ
ス各自ノ症ニ従テ各相適當スルノ方術アル者ナリ
穿ハ方ハ諸人ヲシテ功ナシトシ之ヲ廃棄シ全ク之ヲ方術ノ規矩ニ等
入セス「ヘートル」ト名ル人「サンヒグ」ト名ル人等ノ名家ステラ皆其施ス可ラサル例ヲ書ニ著
セリト雖「マウノイル」ト名ル人「アダムス」ト名ル人両家ノ手ニ由テハ尤上ノ方術トナリテ
再ヒ眼科術ノ一方ニ備レリ即チ「アダムス」ト名ル人ガ「グレートレウイフ」ト名ル地ノ病
院ニ於テ施シ「マウノイル」ト名ル人カ其他ニ於テ之ヲ施メ皆ナ全クノ善功ヲ得
シヿ昭々乎トメ明白ナリ

「アダムス」人名ノ方ハ「セセルデン」人名ヨリ出テ「マウノイル」人名ノ方ハ「ヤニシ」人名ヨリ出テ、
ミナ虹彩ヲ截開クニ在ト雖而レ𪜈其術ニ至テハ各々大ニ相差ヘリ其
差ヿヤ唯タ啻其ノ異ナルノミナラス（「セセルデン」ノ刀ハ唯夫形ツナシ「アダムス」ノ刀ハ甚タ細クメ一側ノ刄ナリ）亦
其施方ニ於テ全ク相反ス即「セセルデン」人名ハ虹彩ヲ后ヨリ前ニ截リ「アダ
ムス」人名ハ之ヲ前ヨリ后ニ截ル且ツ「アダムス」人名ノ刀ハ其一種形ナルニ由テ水
様ノ硝子液（原名ワーテルアクナヘ ガラスホット）ヲ益泄セシメス彼レノ説ニ由ルニ此液溢
泄セサルハ虹彩ヨリ張截ルニ甚タ便ナリト
「ヤニシ」人名ト「マウノイル」人名トハ共ニ纖維ノ條理ヲ云ヿト雖而レ𪜈其差フ所ハ
「ヤニシ」人名ハ虹彩ノ纖維ヲ横断シ「マウノイル」人名ハ其纖維ノ條理ニ従
テ之ヲ断ツニ在リ（按スルニ「マウノイル」ノ説ニ従ヘハ即亦横断スルナリ 竪纖維横纖維ノ別アリ其方術ノ条ニ此考ヲ詳ニシ）今夫レ先
天ノ瞳孔縮閉ニ在テハ「リクテル」人名ノ説ニ従テ人皆虹彩罨截（「マウノイル」「アダムス」ノ方
術此ニ屬ス 截セサルカ故ニ此名アリ）按ニ唯截開ノミニメ深害ヲ佳トシ且ミナラス之ニ由テ善功ヲ得ルニ非スヤ

又「リクテル」人名ノ説ニ云ク虹彩ノ脱垂ニ由テ瞳孔眼ノ中心ニ在ルヿヲ得
ズ角膜ノ縁ニ偏シテ縮閉シ若クハ然ラサルモノニ於テ新タニ瞳孔ヲ
其本位ニ穿タサルヿヲ得サル時一若クハ内翳ヲ摘下シ截破シ或ハ
剔出スル后チ瞳孔ノ一部分閉着シ或ハ全ク縮閉スル時ハ虹彩ノ
罩截ヲ殊ニ佳トス何トナレハ此膜已ニ牽張セルカ故ニ其創口ノ
縁直ニヨク牽縮シテ其孔大ナルヿヲ得レハナリト「ワール」人名モ之ヲ證シ
「ロウクス」人名モ亦此ノヿヲ書ニ著セリ尚且ツ其利ヲ云ハ「マウノイル」人名
「アダムス」人名ノ方ニ従フ時ハ角膜ノ曇翳甚タシキモノニ於テ其透明
ノ部ヲ損スルノ患ナシ他ノ角膜ヲ截開ク方術ニ在テハ屢此害アル
ヲ見ル
穿出方ハ殊ニ虹彩ノ水晶嚢ニ固ク癒着スル者ニ佳トス「ウエンセール」人名
ノ方術ニ従テ虹彩ト水晶嚢トノ分ヲ除去シ其孔ヨリ水晶体ヲ剔

出スル所ハ瞳孔正シク其本位ニ成ルヿヲ得且ツ角膜曇翳スルヿ大ニシテ
唯其縁ノ一部ニ透明ヲ有スル等ノ症ニ在テ此方術ノ善功アル旨ヲ言
「モサルス」(人名)ノ書ニ云ヘルカ如シ(前ニ云ヘズ)凡ソ此方術ノ利ハ虹彩ノ一部分ヲ除去
スルガ故ニ其孔復タヒ縮閉スルノ患ナキト虹彩ノ中央ニ穿ツヿヲ得
ルトニナリ「ロイシケル」(人名)曰ク(千八百十六年ノ著書)若シ穿出方ノ適当スル症ニ於
テ虹彩ノ中央ニ正円ノ瞳孔ヲ穿タバ方術此レニ若クモノ無ケン
故ニ予一種ノ器ヲ工夫シヨリ其器タル先ツ角膜ニ創口ヲ造ル后チ
之ヲ入レテ瞳孔ノ縮閉セル部ヲ掲ケ上ケ以テ虹彩ヲ夾ミ隆起
セシメ之ヲ截ルナリ但シ之ヲ扱フニ片手ヲ以テス可ラシムト
而レ𪜈此器ハ唯考按ノミニシテ未タ之ヲ人ニ試ミシニ非ス実ニ其早ク全
成センヿ吾輩ノ希望スル所ナリ
截離方ハ虹彩ノ白内翳ト固ク癒着セル症或ハ虹彩ノ一部角

膜ト癒着シ眼前室ニ些分ノ罅隙ナク且ツ瞳孔ノ位置其癒着ノ
中ニアル症或ハ角膜ニ大班アル乎或ハ葡桃腫有テ始ト全ク曇翳シ
其残ル所少ナク故ニ角膜ヲ截開カハ其曇翳ヲ透明ノ部ニ増サ
シヿヲ恐ルヽ症適当スルモノトス
(自註)「ベチシッヒ」(人名)ハ此ノ終リノ症ニ於テ剛膜ノ縁ヲ截リ開キ
此方術ノ施メ大ニ功ヲ得タリト云宜ク其書ニ就テ見ルヘシ
「ベール」(人名)ハ穿出方ヲ固執スルノ人ナリト雖自ラ其方ノ必スシモ諸症ニミナ
適当スル者ナラサルヿヲ知レリ故ニ其書ニ云リ(千八百零六年ノ著書)
予カ此方術ニ由ルヤ即穿出方「セセルデヒ」(人名)ノ方術ヲ棄テ唯一方ヲ以テ諸
症殆ント皆治ス可シト雖未タ予カ拵ヲ以テハ此方ニ由テ治ス可ラ
サルモノ一二ナリ即チ角膜ノ大班甚フメ其縁ニ些少モ透明ノ部
ヲ残サヾルモノト其曇翳スル部ノ状ニ由テ角膜ヲ截リ開クヿノ

難キモノト是レナリ而シテ其終リノ症ニ在テハ虹彩ヲ毛状靭帯ト離析セハ尚ヲ治ヲ得可シ其方ハ「スクミット」人名ガ発明セル所ニシテ今已ニ眼科術ノ一方ニ備レリト

截離方ノ目的ハ穿ツ所ノ瞳孔ノ大ナルニ在リ而シテ其愈ヘ大ナルコヲ得ルハ「ランゲンベック」人名ノ虹彩ノ一部ヲ角膜ノ創唇ニ押テ擬造ノ脱垂ヲ生ゼシメ以テ再ヒ縮閉スルヲ防クコヲ発明セルニ由ル所ナリ此故ニ此方ノ貴價ヲ得ルモノハ其功実ニ「ランゲンベック」人名ニ在ルコ疑ナシ

離除方ハ角膜瘍后ノ瘢痕若クハ大班ニ由テ其曇翳スルコ甚シク毛様徒ヲ除去スルニ非レハ視力ノ復スルコ難キ症若クハ「ランゲンベック」「レイシンデル」人名等ノ方術ニ由テ擬造ノ脱垂ヲナス時若シ其虹彩ノ端角膜ノ創唇外ニ出テ、其愈着后必ス瘢痕ヲ残シ固有ノ曇翳ヲ増サシーヲ恐ルヽ時ニ適当ス「レイシンデル」人名曰ク(千八百十六年ノ著ナリ)

毛状輪(原名「コールウェーセルジーシグ」此説ニ由テ之ヲ見レハ毛状靭帯ト混一ナルモノニ似タリ)ト離析セル所ノ虹彩ノ端若シ角膜ノ外ニ出ツル時ハ之ヲ截除〆可ナリ即チ之レ截離方ニ穿出方ヲ合スルモノニシテ「アツサリ」人名ガ離除方ト名クル所ノ者ナリ此方ニ於テモ尚ヲ鈎毛引(前ニシテ出ス)ヲ用フルヲ佳トス其虹彩ノ鈎ル部潤クメ之ヲ曳キ出タスニモ甚タ便ナリ而シテ此方ニ由テ得ル所ノ瞳孔ハ其大サ角膜創唇ニ愈着セシムルモノヽ如ク大ナルコヲ得スト

穿瞳孔施后ノ療法ハ其部(即眼)ニ於ケル者モ全身ニ於ケル者モ其方術ノ異ナルニ随ヒ各相差フ或ハ白内翳ノ施術后ニ於ケルト同フメ可ナルモノアリ或ハ虹彩ヲ毛状靭帯ト離析スル時ハ発スル所ノ劇痛之ニ継発スル所ノ出血及ヒ劇キ焮衝等ニ意ヲ用テ各自ノ治法ヲ施スヘシ其焮衝ニ於テハ一(刺絡及一部ノ瀉血ハ固ヨリ怠ル可カラス)。細キ糸ヲ

冷水ヲ浸メ眼上ニ置クニ勝サルモノナシトス宜ク屡相更換メ與ヘシ眼内ヲ冷ユス可シ一二分時ノ間ニ焮熱消散メ患者軽快ヲ覚ユル者ナリ其刺衝ノ全ク止ムニ至ルマテ必ス之ヲ懈タルヿ勿レ冷水ヲ眼焮衝ニ用ルヿハ往昔ヨリ此レアル所ニメ且ツ「カラー」人名ノ言ニ曰ク（千八百一二年著書）物ノ其中ニ在テ刺戟スルニ非レハ眼焮衝ヲ治スルノ剤冷水ニ勝サルモノナシ唯痛風毒ニ由ル者ニハ功ナシト

又「オンアンデル」人名ニ曰ク（千八百十七年ノ著書）冷水ヲ綿布ニ浸メ眼上ニ置クヤ愈〻多ケレハ愈〻善ク其焮衝ヲ減退メ且ツ眼瞼閉着ノ膿潰ニ進ムヿヲ防衛スルモノナリト

夫レ予カ此著ヲナスヤ唯諸家ノ方術ヲ集メテ以テ此レカ記録ヲナスニハ非ス宜ク取用テ利功アル可キ所ノ諸方術ヲ集メ其原ヲ正タシ當今在ル所ノ內外醫治法ト穿瞳術トノ法則ヲ廣ク示メ天下ニ益アランヿヲ願フノ微意ナリ看官ヨク此ヲ察セヨ尚ヲ庶幾クハ外科家ヨク勉強メ眼科ノ学ヲ研精シ其力ノ有ル所ヲ以テ幸ニ予カ此微志ヲ助ケンヿヲ

附録穿瞳術集論終

桂林堂

一書房十八日

二山